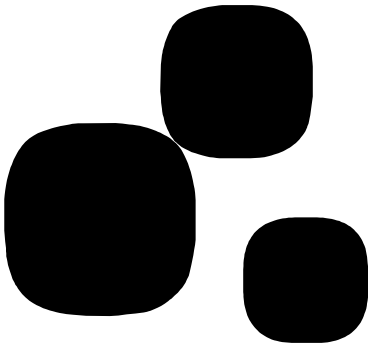
2026年度

授業計画書

（SYLLABUS）



トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校

こども保育学科　１年

カリキュラム・マップ……4
１．日本国憲法……6
２．生涯スポーツ……7
３．健康科学……8
４．情報処理……9
５．英会話……１０
６．教育原理……１１
７．社会福祉……１２
８．社会的養護Ⅰ……１３
９．教職概論……１４
10．教育課程総論……１５
11．教育方法論……１６
12．教育心理学……１７
13．幼児の心理学……１８
14．健康（指導法）……１９
15．環境（指導法）……２０
16．言葉（指導法）……２１
17．造形表現（指導法）……２２
18．音楽表現（指導法）……２３
19．劇遊び（指導法）……２４
20．幼児と音楽表現……２５
21．教育実習事前事後指導Ⅰ……２６
22．音楽（基礎）……２７
23．歌唱……２８
24．事前保育教育観察実習（幼稚園・保育所）……２９
25．社会貢献活動Ⅰ……３０
26．総合演習……３１

こども保育学科　２年

カリキュラム・マップ……３４
１．保育原理……３６
２．子ども家庭福祉……３７
３．子ども家庭支援論……３８
４．社会的養護Ⅱ……３９
５．子ども家庭支援の心理学……４０
６．子どもの保健……４１
７．子どもの食と栄養……４２
８．保育内容総論……４３
９．音楽表現技術……４４
10．幼児と造形表現……４５
11．幼児と健康……４６
12．幼児と言葉……４７
13．幼児と環境……４８
14．幼児体育……４９
15．言語表現……５０
16．障害児保育……５１
17．子育て支援Ⅰ……５２
18．教育相談……５３
19．保育実習Ⅰ（保育所）……５４
20．保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所）……５５
21．保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）……５６
22．教育実習Ⅰ……５７
23．音楽（応用）……５８
24．障害の理解Ⅰ……５９
25．障害の理解Ⅱ……６０
26．教育実習事前事後指導Ⅱ……６１
27．保育特論Ⅰ……６２
28．社会貢献活動Ⅱ……６３
29．就職実務Ⅰ……６４
30．介護実務者研修Ⅰ（選択）……６５

こども保育学科　３年

カリキュラム・マップ……６８
１．保育の心理学……７０
２．人間関係（指導法）……７１
３．幼児と人間関係……７２
４．乳児保育Ⅰ……７３
５．乳児保育Ⅱ……７４
６．子どもの健康と安全……７５
７．幼児への特別な支援……７６
８．保育・教職実践演習……７７
９．保育実習Ⅰ（施設）……７８
10．保育実習Ⅱ……７９
11．保育実習事前事後指導Ⅱ……８０
12．教育実習Ⅱ……８１
13．音楽（実践）……８２
14．指導案実践演習Ⅲ……８３
15．子育て支援Ⅲ……８４
16．保育特論Ⅱ……８５
17．社会貢献活動Ⅲ……８６
18．就職実務Ⅲ……８７
19．ＩＣＴスキル講座（選択必修）……８８
20．おやつと食育（選択必修）……８９
21．環境と自然（選択必修）……９０
22．チャイルドスポーツ（選択必修）……９１
23．チャイルドミュージック（選択必修）……９２
24．チャイルドアート（選択必修）……９３
25．介護実務者研修Ⅱ（選択）……９４

こども保育学科

１年

カリキュラム・マップ（こども保育学科）

2026年度入学生用

＜ディプロマ・ポリシー（DP）＞

1）保育・福祉における様々な課題をとらえ、現場で支援・指導するための**専門的知識及び技能(DP1)**を身に付ける。
2）保護者、地域、多職種と円滑に**コミュニケーションをはかる能力(DP2)**を兼ね備え、保育・福祉の現場で実践できる能力を身に付ける。
3）保育・福祉に携わる社会人として相応しい**倫理観、使命感・責任感、やさしさと思いやり(DP3)**を持って行動できる。

区分	履修科目名	履修学年	履修時間	単位	DP1	DP2	DP3
基礎分野	日本国憲法	1	30	2	◎		○
	生涯スポーツ	1	30	1	◎	○	
	健康科学	1	15	1	◎	○	
	情報処理	1	60	2	◎	○	
	英会話	1	60	2	◎	○	
専門分野	保育原理	2	30	2	◎		
	教育原理	1	30	2	◎		
	子ども家庭福祉	2	30	2		◎	
	社会福祉	1	30	2	◎		
	子ども家庭支援論	2	30	2		◎	
	社会的養護Ⅰ	1	30	2	◎		
	社会的養護Ⅱ	2	30	1	◎		
	教職概論	1	30	2	◎		
	教育課程総論	1	30	2	◎		
	教育方法論	1	30	2	◎		
	保育の心理学	3	30	2	◎		
	子ども家庭支援の心理学	2	30	2		◎	
	教育心理学	1	30	1	◎	○	
	幼児の心理学	1	15	1	◎	○	
	子どもの保健	2	30	2	◎	○	
	子どもの食と栄養	2	60	2	◎	○	
	保育内容総論	2	30	1	◎	○	
	健康（指導法）	1	30	1	◎	○	
	人間関係（指導法）	3	30	1	◎	○	
	環境（指導法）	1	30	1	◎	○	
	言葉（指導法）	1	30	1	◎	○	
	造形表現（指導法）	1	60	2	◎	○	
	音楽表現（指導法）	1	30	1	◎	○	
	劇遊び（指導法）	1	30	1	◎	○	
	幼児と音楽表現	1	30	1	◎	○	
	音楽表現技術	2	30	1	◎	○	
	幼児と造形表現	2	30	1	◎	○	
	幼児と健康	2	30	1	◎	○	
	幼児と言葉	2	15	1	◎	○	
	幼児と人間関係	3	15	1	◎	○	
	幼児と環境	2	15	1	◎	○	
	幼児体育	2	15	1	◎	○	
	言語表現	2	30	1	◎	○	
	乳児保育Ⅰ	3	30	2	◎	○	
	乳児保育Ⅱ	3	30	1	◎	○	

区分	履修科目名	履修学年	履修時間	単位	DP1	DP2	DP3
専門分野	子どもの健康と安全	3	30	1	◎	○	
	障害児保育	2	30	1	◎	○	
	幼児への特別な支援	3	15	1	◎	○	
	子育て支援Ⅰ	2	30	1	◎	○	
	教育相談	2	30	2	◎	○	
	保育・教職実践演習	3	60	2	◎	○	○
	保育実習Ⅰ（保育所）	2	90	2	◎	○	
	保育実習Ⅰ（施設）	3	90	2	◎	○	
	保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所）	2	30	1	◎	○	
	保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）	2	30	1	◎	○	
	保育実習Ⅱ	3	90	2	◎	○	
	保育実習事前事後指導Ⅱ	3	30	1	◎	○	
	教育実習Ⅰ	2	90	2	◎	○	
	教育実習事前事後指導Ⅰ	1	30	1	◎	○	
	教育実習Ⅱ	3	90	2	◎	○	
本学開講専門分野	音楽（基礎）	1	30	1	◎	○	
	音楽（応用）	2	30	1	◎	○	
	音楽（実践）	3	60	2	◎	○	
	歌唱	1	30	1	◎	○	
	障害の理解Ⅰ	2	30	1	◎	○	
	障害の理解Ⅱ	2	30	1	◎	○	
	教育実習事前事後指導Ⅱ	2	30	1	◎	○	
	事前保育教育観察実習（幼稚園・保育所）	1	30	1	◎	○	
	保育特論Ⅰ	2	30	1			○
	保育特論Ⅱ	3	60	2			○
	社会貢献活動Ⅰ	1	90	2		○	◎
	社会貢献活動Ⅱ	2	90	2		○	◎
	社会貢献活動Ⅲ	3	90	2		○	◎
	総合演習	1	30	1			◎
	就職実務Ⅰ	2	30	2			◎
	就職実務Ⅱ	3	30	2			◎
選択必修	ＩＣＴスキル講座	3	30	1	◎	○	
	おやつと食育	3	30	1	◎	○	
	環境と自然	3	30	1	◎	○	
	チャイルドスポーツ	3	30	1	◎	○	
	チャイルドミュージック	3	30	1	◎	○	
	チャイルドアート	3	30	1	◎	○	
選択	介護実務者研修Ⅰ	2	230	7	◎		○
	介護実務者研修Ⅱ	3	230	7	◎		○
				◎の科目数	68	3	6
				○の科目数	0	59	5

◎：科目の到達目標が該当のDPに直結する科目（各科目１つのみ◎をつける）

○：科目の到達目標が該当のDPに関連する科目（各科目複数の○をつけてもよい）

授業科目	日本国憲法			担当者	中野　倫嘉		実務経験
履修方法	講義	期間	後期	学科・学年	保育１年	時間数（単位数）	３０（２）

授業の目的・内容

日本国憲法の基本的な知識を身につけ、併せて法律の基本的な考え方を学ぶことを通じて、学生が憲法の大切さを理解するとともに、法律を使って物事を考える力を身につけることを目的とする。

到達目標

憲法や法律を学ぶことにより、日々の情報を取得し又は物事を考える上での新たな視点を獲得し、法律を使った課題解決ができる力を身につける。

授業計画

【後期】

１．授業のガイダンス、憲法の基礎知識
２．基本的人権の原理と制約
３．包括的基本権　　幸福追求権(13)、法の下の平等(14)
４．精神的自由権１　　内心の自由（思想・良心の自由(19)、信教の自由(20)、学問の自由(23)）
５．　〃　２　　表現の自由(21)とはどういうものか
６．　〃　３　　表現の自由(21)はどこまで認められるか。併せて、集会・結社の自由(21)等
７．経済的自由権　　職業選択の自由(22)、居住・移転の自由(22)、財産権(29)
８．その他の人権　　人身の自由(18、31～40)、参政権(15)、社会権(25～28)等
９．国会
10．内閣
11．裁判所
12．財政と地方自治
13．憲法保障
14．人権の事例検討
15．まとめ

事前・事後学習の内容

・あらかじめ教科書の指定箇所を読んでおくことが望ましい
・随時小テストを実施する（２～３回)、レポート課題有り（１回)

評価の方法・基準

・期末試験（75%）
・出席、小テスト、レポート（25%）

教科書

・藤川信夫『はじめて学ぶ人のための憲法』(文眞堂)

※参考文献　芦部信喜『憲法 第八版』(岩波書店)、
横大道聡・吉田俊弘『憲法のリテラシー』(有斐閣)
安西文雄・巻美矢紀・宍戸常寿『憲法学読本 第三版』(有斐閣)

備考

授業科目	生涯スポーツ			担当者	山本　美玖		実務経験
履修方法	実技	期間	前期	学科・学年	保育１年	時間数（単位数）	３０（1）

授業の目的・内容

スポーツを生活に取り入れることで健康で活力ある日々を送ることができる。本授業において、様々なスポーツを実践・体感し、生涯スポーツの理解を深める。

到達目標

・スポーツの楽しさ、大切さを説明できる。
・自分自身の健康と運動について考え、実施できるようになる。

授業計画

【前期】

１．集団行動①
２．　〃　②
３．球技（バレーボール・バトミントン・卓球　など）①
４．　〃　②
５．　〃　③
６．　〃　④
７．　〃　⑤
８．　〃　⑥
９．筋力トレーニング、持久力トレーニング、体力測定 ①
10.　〃　②
11.　〃　③
12.　〃　④
13.　〃　⑤
14.　〃　⑥
15. まとめ

事前・事後学習の内容

・スポーツの話題をテレビや自身の生活の中で見つける。

評価の方法・基準

・出席状況（60%）、授業態度・技術習得度（40%）とし、総合的に評価する。

教科書

・なし

備考

授業科目	健康科学			担当者	山本　美玖		実務経験
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	保育１年	時間数（単位数）	１５（1）

授業の目的・内容

現代社会は健康を取り巻く情報が多様化しており、多くの人が情報に混乱している。生涯を通じ健康で活力ある生活を営むために、健康づくりの基礎的な知識を学び実践することが必要である。本授業において健康づくりの基礎を習得する。

到達目標

・健康とは何か、健康を取り巻く環境を説明できるようになる。
・健康施策を説明できる。
・健康と運動のつながりを説明することができる。

授業計画

【前期】

１．健康の概念
２．健康・体力と運動
３．健康増進のための国、自治体の施策①
４．　〃　②
５．体のしくみ①　運動と身体の機能
６．　〃　②　トレーニング科学
７．　〃　③　運動と食・健康のつながり
８．まとめ

事前・事後学習の内容

・教科書を事前に読んでおく。
・日常の中で健康や運動の話題や取り組みを確認する。

評価の方法・基準

・筆記試験（60%）、提出物・出席状況・授業態度（40%）とし総合的に評価する。

教科書

・『生涯スポーツ・健康科学』（近畿大学九州短期大学）

備考

授業科目	情報処理			担当者	松岡　伸吾		実務経験
履修方法	演習	期間	通年	学科・学年	保育１年	時間数（単位数）	６０（２）

授業の目的・内容

講義での演習を通じ、パソコンの基本的な仕組みの理解、効率的な業務を行うために必要なタッチタイピング等のパソコンの基本操作、使用頻度が高いワープロソフト、表計算ソフトの基本操作の習得を主な目的とする。また、プレゼンテーションソフトの演習を通じその基本操作方法も学ぶ。

到達目標

・日本語ワープロ検定試験３級以上の取得
（合格条件：①10 分間で 300 文字以上のタイピング能力、②20 分間で一般的な社外文章の作成能力）
・情報処理技能検定の３級以上の取得
（合格条件：30 分間で検定問題の 80 点以上の取得）

授業計画

【前期】

１．パソコンのしくみについて
２．マウスとキーボードの基本操作
３．ワープロソフトの基本操作
４．ワープロ検定の概要&練習①
５．　〃　②
６．ワープロ検定演習①
７．　〃　②
８．　〃　③
９．　〃　④
10．　〃　⑤
11．　〃　⑥
12．　〃　⑦
13．　〃　⑧
14．まとめ、ワープロ検定試験
15．差し込み印刷、セキュリティ、情報モラル

【後期】

16．表計算ソフトの基本操作①
17．　〃　②
18．情報処理技能検定の概要&練習①
19．　〃　②
20．情報処理技能検定練習①
21．　〃　②
22．　〃　③
23．　〃　④
24．　〃　⑤
25．　〃　⑥
26．　〃　⑦
27．　〃　⑧
28．まとめ、情報処理技能検定試験（表計算）
29．プレゼンテーションソフトの操作&作成①
30．　〃　②

事前・事後学習の内容

・タッチタイピングの自主練習
・テキストにおける表計算ソフト及びプレゼンテーションソフトの基本操作部分の予習
・講義中に行う演習課題の誤り箇所の修正

評価の方法・基準

・検定結果（80%）、出席・授業態度（20%）。ただし、講義中の演習課題を全て完成させ、提出していることが評価を出す条件とする。

教科書

・阿部正平・阿部和子・二宮祐子『保育者のためのパソコン講座 Windows11 Microsoft365 Office2024/2021 対応』（萌分書林）

備考

授業科目	英会話			担当者	松田　絵莉		実務経験
履修方法	演習	期間	通年	学科・学年	保育１年	時間数（単位数）	６０（２）

授業の目的・内容

日常生活、保育の場で使える、又は必要となる表現やフレーズを身に付けることを目的とする。
聞く、話す、読む、書くという活動を通して英語に慣れ親しみ、英語での表現力とコミュニケーション能力を習得する。

到達目標

・基本的な英語の語彙力を身に付ける。
・英語で基本的な質問や応答、表現をすることができる。
・英語の会話を聞いて内容が理解できる。

授業計画

【前期】

1. Introduction/Pre-unit:Please Speak More Slowly/Unit1:Hi,I'm Yuri Tanaka①
２. Unit1:Hi,I'm Yuri Tanaka②
３. Unit2:Where Is the Multi-purpose Room?①
４.　〃　②
５. Unit3:Good Morning. How Are You Today?①
６.　〃　②
７. Unit4:What Color Do You Like?①
８.　〃　②
９. Unit5:There's a Ladybug on the Leaf①
10.　〃　②
11. Unit6:It's Time to Play Outside①
12.　〃　②
13 Unit7:She Is Allergic to Eggs①
14.　〃　②
15. Review/Mid-term Test

【後期】

16. Unit8:You Should Go to the Bathroom①
17.　〃　②
18. Unit9:We Made Masks Today①
19.　〃　②
20. Unit10:If It Rains, What Happens?①
21.　〃　②
22. Unit11:What Shall We Do Today?①
23.　〃　②
24. Unit12:I Feel Feverish①
25.　〃　②
26. Unit13:This Is Yuri from Cosmos Day Care Center①
27.　〃　②
28. Unit14:Thank You Very Much for Everything①
29.　〃　②
30. Review/Finial Exam

事前・事後学習の内容

・単語や語句等の意味調べの予習
・教科書に付帯している音声ファイルを使って、予習・復習をすること
・復習プリント

評価の方法・基準

授業態度、出席状況(20%)、宿題・小テスト・提出物(20%)、学期末試験(60%)

教科書

『Happy English for Childcare 保育のための基礎英語』(金星堂)
※辞書(英和・和英)を持参すること。電子辞書も可。

備考

授業科目	教育原理			担当者	河地　あすか		実務経験 ○
履修方法	講義	期間	後期	学科・学年	保育１年	時間数（単位数）	３０（２）

授業の目的・内容

「教育とは何か」という基本的概念、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史・思想において、それらがどのように現れてきたのかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校（幼稚園・保育所等）の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。そして、これからの社会を生きていく子ども達に必要な教育、特に幼児教育はどうあるべきかを考えることができるようにする。

到達目標

・教育の基本的概念を理解する。
・教育の歴史に関する基本的な意識を身に付け、様々な子ども観、教育理念、思想について理解する。
・幼児教育の基本と幼児の理解について学び、幼児教育の現状と課題について理解する。

授業計画

【後期】

１．教育とは何か
２．教育の意義と目的
３．教育の思想とその歴史①（諸外国）
４．　〃　②（日本）
５．教育制度の成立と幼児教育の展開
６．戦後における教育の再出発
７．教育の法規と制度の基礎
８．諸外国における教育・保育
９．教育の方法①
10．　〃　②
11．教育の内容
12．教育の計画と評価（カリキュラムマネジメント）
13．現代社会と生涯学習
14．現代の保育・教育現場の現状と課題
15．まとめ

事前・事後学習の内容

・事前にテキストを読む等予習をしておくこと
・授業毎にリアクションペーパーを記入し復習をすること

評価の方法・基準

・受講態度、出席状況（10%）、リアクションペーパーの提出（20%）、筆記試験（70%）

教科書

・『保育のための教育原理』（ミネルヴァ書房）
・『幼稚園教育要領解説（文部科学省）』（フレーベル館）
・『保育所保育指針解説（厚生労働省）』（フレーベル館）

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、教育課程・全体の計画・指導計画について講義する。

授業科目	社会福祉			担当者	鹿見　勇輔		実務経験 ○
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	保育１年	時間数（単位数）	３０（２）

授業の目的・内容

保育士に求められる社会福祉の考え方、社会福祉法制度、相談援助技術などについて体系的に学習する。

到達目標

・日常の暮らしと、社会福祉とのつながりを理解することができる。
・社会福祉の視点と社会福祉の基礎理念を理解することができる。

授業計画

【前期】

１．社会福祉と私たちの生活との関わりについて
２．社会保障について①（生活保護）
３．　〃　②（社会保険）
４．　〃　③（社会手当）
５．社会福祉法と社会福祉六法について
６．第１種社会福祉事業と第２種社会福祉事業
７．ノーマライゼーションについて
８．日本の社会福祉施設とその問題点
９．社会福祉専門職について
10．社会福祉援助技術の種類と援助方法
11．福祉サービス利用者の権利擁護と苦情解決
12．少子高齢社会について
13．保育所、認定こども園、幼稚園の共通点と相違点
14．児童相談所の役割と機能について
15．まとめ

事前・事後学習の内容

・授業後のまとめとして課題に沿ってレポートを提出する。各レポート 800 字程度とする。

評価の方法・基準

・筆記試験（50%）、レポート提出（35%）、授業などの取り組み（15%）など総合的に評価する。

教科書

・『コメディカルのための社会福祉　第３版』（講談社）

備考

社会福祉士として福祉現場で経験のある者が、社会福祉法制度や相談援助技術について講義する。

授業科目	社会的養護Ⅰ			担当者	上栗　明男		実務経験
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	保育１年	時間数（単位数）	３０（２）

授業の目的・内容

児童養護における「家庭養育」と「社会的養護」の関係と役割を理解しながら、養護問題の現状と児童福祉施設の実際について認識を深める。殊に直接処遇における専門的援助技術とそれを補う実践的スキルについても、実践例から学ぶ。

到達目標

・社会的養護の対象となる児童に対する偏見や無理解（かわいそうな子・親のいない子等）を払拭し、社会的養護の存在意義と施設の積極的意義を正しく理解することができる。

授業計画

【前期】

１．入所児童からの訴え（作文集『続・泣くものか』）
２．児童養護における「家庭養育」と「社会的養護」の定義と関係
３．映画「石井のおとうさんありがとう」鑑賞
４．「岡山孤児院十二則」と石井十次の実践
５．社会的養護の歴史と変遷
６．現代の家庭養育環境と問題
７．施設養護の原理
８．施設養護における集団性の弊害と治療教育的利点
９．児童援助技術の実践的スキル
10．日常生活の援助の在り方（衣食住）
11．「インケア」と「アフターケア」の関係
12．児童相談所及び関係機関との連携
13．入所施設保育者としての資質
14．望ましい保育者像
15．まとめとレポート作成

事前・事後学習の内容

・最近のマスメディアで報道される「児童虐待事案」や児童福祉に関する施策・法改正について関心を持っておくこと。

評価の方法・基準

・レポートを基本とするが（90%）、授業への取り組み（授業への関心度・マナー・質問への応答）（10%）も加味する。

教科書

・近畿大学九州短期大学指定テキスト『社会的養護』（中央法規）

備考

授業科目	**教職概論**			担当者	河地　あすか		実務経験 ○
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	保育１年	時間数（単位数）	３０（２）

授業の目的・内容

現在の社会状況において、子どもだけではなく、保育者（教師）を取り巻く環境も変化してきている。様々に変化しつつある子どもたちの健全な育成、そして保護者への対応、地域との連携など多くの職務内容に対応していかなければならない。「保育者（教師）とは何か」「教育とは何か」を、共に考えながら、保育者（教師）の役割・倫理等について学び、現在の社会状況に対応できるよう保育者（教師）としての資質を高めていくことを目的とする。

到達目標

・保育者（教師）の役割について理解をしている。
・保育者（教師）の職務内容について説明できる。
・現在の保育者（教師）に求められる資質能力を理解している。

授業計画

【前期】

１．教育、保育とは何か
２．保育者（教師）に求められる資質と専門性
３．日本の教職の歴史①（戦前）
４．　〃　②（戦後）
５．保育者（教師）の職務内容①
６．　〃　②
７．　〃　③
８．現代社会の子どもたち【地域・家庭・学校（幼稚園・保育所）】①
９．　〃　②
10．保育者（教師）の連携体制
11．カウンセリングマインド①
12．　〃　②
13．保育者（教師）をめぐる制度
14．保育者（教師）の専門性と研修
15．まとめ

事前・事後学習の内容

・事前にテキストを読んでおくこと。
・授業毎にリアクションペーパーに記入し復習をすること。
・子ども、家庭、学校、保育者（教師）に関する情報に興味関心をもち、情報収集を心がけること。

評価の方法・基準

・受講態度・出席状況（10%）、リアクションペーパーの提出（20%）、筆記試験（70%）

教科書

・『改訂　教職入門』（萌文書林）

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、教師の在り方について講義する。

授業科目	教育課程総論			担当者	河地　あすか		実務経験
履修方法	講義	期間	後期	学科・学年	保育１年	時間数（単位数）	３０（２）

授業の目的・内容

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を基準として、幼稚園・保育所・こども園において編成される教育課程・全体的な計画・教育及び保育の内容に関する全体的な計画について、その意義や役割、編成の方法を理解する。そして、指導計画を作成する上での留意事項や適切に活用する方法を様々な資料に触れながら理解する。また、指導計画の立案・実践・反省・評価（カリキュラムマネジメント）の重要性についても学ぶ。

到達目標

・教育課程、全体的な計画の目的や意義、役割について説明できる。
・教育課程、全体的な計画と指導計画との関係を説明できる。
・指導計画を立案、作成することができる。

授業計画

【後期】

１．幼児教育、保育の基本
２．教育課程（幼稚園）、全体的な計画（保育所・こども園）の意義と役割①
３．　〃　②
４．幼稚園教育の基本
５．教育課程と指導計画の実際
６．保育所保育の基本
７．全体的な計画と指導計画の実際
８．指導計画作成の基本と方法
９．指導計画の作成①
10．　〃　②
11．3 歳未満児の保育と指導計画
12．3 歳以上児の保育と指導計画
13．保育の実践と評価①
14．　〃　②
15．まとめ

事前・事後学習の内容

・事前にテキストを読んでおくこと
・授業毎に復習し理解を深めておくこと

評価の方法・基準

・受講態度、出席状況（10%）、リアクションペーパーの提出、その他の提出物（20%）、筆記試験（70%）

教科書

・『教育・保育課程論：書いて学べる指導計画』（萌文書林）
・『幼稚園教育要領解説（文部科学省）』（フレーベル館）
・『保育所保育指針解説（厚生労働省）』（フレーベル館）

備考

授業科目	教育方法論			担当者	樋野本　順子		実務経験
履修方法	講義	期間	後期	学科・学年	保育１年	時間数（単位数）	３０（２）

授業の目的・内容

子どもの生活の中心は遊びであり、その遊びは子どもにとって学びである。保育者は、子ども達と様々な遊びに取り組み、共に楽しんだり悩んだりしながら、子どもの中に遊びを通して育つことや育ってほしいことを指導・援助していく。本授業では、教育方法の変遷を知識として習得し、実践に繋げていく。また、保育場面を観察し、集団構造について考察し、子ども理解と保育方法について探究する。

到達目標

・教育方法について学び理解する。
・様々な保育の形態について理解し、説明できる。
・保育を構成する教材や環境について理解し、実践を構想できる。

授業計画

【後期】

１．教育方法の基礎理論
２．日本の幼児教育の歴史
３．環境を通して行う教育
４．子どもの育ちと物的環境
５．子どもの育ちと人的環境
６．子どもの育ちと社会的環境
７．幼児期までに育ってほしい姿と教育課程
８．「主体的・対話的で深い学び」と教育方法
９．幼児理解に基づいた評価
10．幼児教育・保育における遊び
11．幼児教育・保育における計画
12．幼児教育・保育における ICT の活用
13．情報活用能力と幼児教育・保育
14．幼児教育・保育のこれから
15．まとめ

事前・事後学習の内容

・最近の教育に関する情報を、新聞、インターネット、雑誌から収集しておく。
・授業で学んだ内容についてまとめておく。

評価の方法・基準

・期末試験（60%）、演習課題への取り組み（40%）

教科書

・文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
・厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館）
・内閣府『幼保連携型認定こども園　教育・保育要領』
・『幼児教育・保育のための教育方法論』（ミネルヴァ書房）

備考

授業科目	教育心理学			担当者	有馬　多久充		実務経験
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	保育１年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

保育の実践に必要な心理学的知見を理解することによって、子どもを見る目・保育を見る目を養う。
子育て支援の一環として保育における相談に対応できる能力を育成する。

到達目標

・保育の実践に役立つ心理学の基礎的な知識・視点を身につける。

授業計画

【前期】

１．保育と教育心理学
２．子どもの発達（Ⅰ）
３．　〃　（Ⅱ）
４．学習行動の基礎
５．学びの動機づけ
６．知的能力の発達
７．パーソナリティの発達
８．教育・保育における評価
９．発達障害のある子どもの教育・保育
10．保育のなかで生かす教育心理学
11．就学に向けて（幼・保・小連携）
12．家族ぐるみの教育的支援
13．子どもをめぐる教育的問題
14．まとめ①
15．　〃　②

事前・事後学習の内容

・各授業までに、教科書の該当箇所を読んでおく。

評価の方法・基準

・学期末試験を重視する（50%）。提出物（レポート課題）等も考慮する（50%）。

教科書

・『新時代の保育双書　保育に生かす教育心理学』（株式会社みらい）

備考

授業科目	幼児の心理学			担当者	有馬 多久充		実務経験
履修方法	講義	期間	後期	学科・学年	保育１年	時間数（単位数）	１５（１）

授業の目的・内容

本授業では、保育に携わる者に必要とされる子どもの発達を捉える視点や子どもの発達過程ついて学び、子どもへの理解を深める。また、子どもの発達に影響を与える人や環境の意義を理解する。

到達目標

・子どもの諸側面の発達過程を説明することができる。
・子どもの発達を捉える理論とそれに基づく保育について説明することができる。

授業計画

【後期】

１．子どもの発達の理解とその意義、子どもの発達と環境
２．身体的機能の発達と社会情動的発達（自己と感情、他者理解、他者とのかかわり）
３．愛着の形成
４．認知の発達（認識の基礎、数と形、言葉と文字）
５．乳幼児期の学びにかかわる理論
６．発達障害とその支援
７．保育における遊びと学び
８．まとめ

事前・事後学習の内容

・授業終了時に示す課題についてレポートを作成する。

評価の方法・基準

・レポート（40%）、期末試験（60%）に基づき総合的に評価する。

教科書

・『実践に活かす保育の心理学』（ミネルヴァ書房）
・配布資料

備考

授業科目	健康（指導法）			担　当　者	樋野本　順子		実務経験 ○
履修方法	演習	期　　間	前期	学科・学年	保育１年	時　間　数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

・乳幼児の成長・発達について理解し、乳幼児の健康に必要な生活習慣や活動の中心となる遊びの意味について理解していく。また、「健康」領域の中心となる「運動遊び」や「基本的生活習慣」に関する指導・援助の在り方を検討していく。

・新聞やインターネットなどの情報から乳幼児の健康に関する現代的課題を探求していく。

到達目標

・「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園　教育・保育要領の領域「健康」に示される、「ねらい」「内容」を理解する。乳幼児の「基本的生活習慣」・「運動遊び」・「安全教育」等の指導・援助及び環境構成を実践していくための基礎的な知識、技能を獲得する。

授業計画

【前期】

１．オリエンテーション　心身の健康に関する領域「健康」①
２．　〃　②
３．乳幼児の健康と課題
４．領域「健康」における教材研究
５．安全教育と安全管理　応急処置法
６．身近な物を使っての遊びと健康①
７．　〃　②
８．　〃　③、発表
９．リズム遊びと健康①
10．　〃　②
11．　〃　③、発表
12．集団遊びと健康①
13．　〃　②
14．　〃　③、発表
15．まとめ

事前・事後学習の内容

・授業時間内で学習した内容に関して個人及びグループで復習するとともに、遊びの取り組みや指導・教材・応急処置等についてノートに整理しておく。

※活動の際には、指定された服装、身だしなみで臨むこと。

評価の方法・基準

・毎授業の感想文（20%）課題レポート（40%）単位修了試験（40%）

教科書

・『演習保育内容　健康』（萌文書林）
・文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
・厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館）
・内閣府『幼保連携型認定こども園　教育・保育要領』

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、幼児教育・保育の基本である、保育のねらいと内容「健康」について講義する。

授業科目	環境（指導法）			担当者	樋野本　順子		実務経験 ○
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育１年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

乳幼児の発達における環境の重要性を理解し、様々な環境にかかわる保育（領域「環境」）の内容と指導に関する知識・技術ついて学ぶ。球根植えや苗植えの体験活動をおこない、生命の尊さを学ぶと共に子ども理解と観察力を向上させ、乳幼児一人一人の発達に応じた指導について探求する。

到達目標

・持続可能な社会を構築するために必要な考え方や取り組みを理解する。
・子どもの発達と環境とのかかわりについて理解する。
・領域「環境」のねらいと内容を深く読み取り理解する。

授業計画

【後期】

１．ガイダンス・人間の生活と環境
２．領域「環境」のねらい及び内容について
３．思考力の芽生えを育む保育
４．乳幼児の好奇心、探究心を育む保育
５．身近な生活の中でのかかわりと保育
６．環境をつくる　文字と数
７．日常生活での数量・図形の体験
８．季節を考えた保育①
９．　〃　②
10．　〃　③
11．物的環境を考えた保育①
12．　〃　②
13．　〃　③
14．　15．まとめ

事前・事後学習の内容

・事前にテキストを読み、不明な点を明確にしておくこと。
・各回の課題は整理しておくこと。課題は全授業終了後にファイリングして提出。
・授業は、指定した服装、身だしなみで受けること。

評価の方法・基準

・指導案、課題提出（80%）、レポート（20%）

教科書

・文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
・厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館）
・『新・保育と環境　「改訂版」』　小川圭子　編著（嵯峨野書院）

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、幼児教育・保育の基本である、保育のねらいと内容「環境」について講義する。

授業科目	言葉（指導法）			担当者	河地　あすか		実務経験 ○
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育１年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

保育における言葉の発達を理解する。また、各年齢での言葉の育ちの特徴と配慮が必要とされる子どもや家庭への「言葉」の支援について学ぶ。言葉を育てるための児童文化財を知り、指導計画の立案と実践を具体的に理解し、子ども達の「言葉」の豊かな育ちを支える方法を創造できるようになることを目指す。

到達目標

・領域「言葉」について理解を深める。
・各年齢の言葉の発達について理解する。
・言葉を育てる児童文化財への理解を深め、指導方法を習得する。

授業計画

【後期】

１．言葉とは何か
２．保育における言葉の発達
３．０歳児の言葉
４．１歳児の言葉・２歳児の言葉
５．３歳児の言葉・４歳児の言葉
６．５歳児の言葉
７．領域「言葉」
８．言葉の発達を促す児童文化財（３歳未満児）
９．言葉の発達を促す児童文化在（３歳以上児）
10. ICT を活用した保育実践①
11. 〃 ②
12. 〃 ③
13. 保育実践（絵本・紙芝居・素話等）①
14. 〃 ②
15. まとめ

事前・事後学習の内容

・テキストを事前に読んでおくこと。
・乳幼児の表情や言葉について興味をもち観察をしておくこと。
・乳幼児の絵本等に日頃から興味関心をもち、積極的に手に取っておくこと。

評価の方法・基準

・筆記試験（50%）、保育実践（30%）、受講態度・出席状況（10%）、提出物（10%）

教科書

・『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）・『保育所保育指針解説』（厚生労働省）
・『コンパス保育内容「言葉」第２版』（健帛社）

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、幼児教育・保育の基本である、保育のねらいと内容「言葉」について講義する。

授業科目	造形表現（指導法）			担当者	樋野本　順子		実務経験 ○
履修方法	演習	期間	通年	学科・学年	保育１年	時間数（単位数）	６０（２）

授業の目的・内容

多様な幼児の造形表現活動に必要な基礎的技術・知識の習得。
生活を豊かにしたり、感動を伝え合ったりできる表現活動を体験する。
幼児の心を動かす造形をグループで作成し披露する。

到達目標

・造形活動の基礎となる平面・立体の作品作り・身近な素材を使った制作活動を通して、多様な幼児の造形表現活動に必要な材料研究を行い、幼児の造形活動における適切な指導や援助方法を理解する。
・作品を作って乳幼児に披露することによりしたり、共に活動したり、鑑賞したりすることを通して様々な表現活動の意味に気付き工夫して遊んだり、演出したりする力を養う。

授業計画

【前期】

１．オリエンテーション　造形表現についての概要
２．幼児造形表現の理解・かく・つくるの発達段階
３．絵画技法の色々①ペープサート
４．　〃　②
５．表現技法を使って①スケッチブックシアター
６．　〃　②
７．生活を彩る造形①簡単な形を描こう
８．　〃　②スクラッチ・デカルコマニー
９．　〃　③にじみ絵・マーブリング
10．　〃　④スライム・絵具
11．　〃　⑤張り子
12．　〃　⑥様々な技法を使って
13．　〃　⑦段ボールを活用して
14．　〃　⑧総合
15．中間発表

【後期】

16．　〃　⑨　影絵
17．　〃　⑩
18．　〃　⑪
19．　〃　⑫
20．　〃　⑬
21．作品紹介　発表①
22．　〃　②
23．遊びを彩る造形表現①
24．　〃　②
25．　〃　③
26．　〃　④
27．　〃　⑤
28．　〃　⑥.
29．　〃　⑦
30．まとめ

事前・事後学習の内容

・使用する道具・材料の準備をする。（※指定している持参材料・道具は、指定されたものを持参する。）
・授業で製作した作品を大切にし、製作方法・感想・作品の写真をきちんと整理する。
・作品が子どもたちに与える影響についてグループで考え、実践活動に反映させる。
・授業は、指定した服装で受けること。

評価の方法・基準

・課題作品、振り返りシート（80%）レポート（20%）

教科書

・『幼児・初等教育　造形コース』（日本色研）
・『造形表現（指導法）』（近畿大学九州短期大学）
・プリント

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、様々な教材の使い方・表現方法・技術を指導する。

授業科目	音楽表現(指導法)			担当者	相川　万里子		実務経験
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	保育１年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の領域「表現」から、子どもの姿や保育者の指導方法など、幼児教育の音楽的な表現について学び理解する。また、感性を豊かにし、様々な表現を楽しみ考える力を身に付け、保育現場の音楽的表現活動において指導者としての基本的知識・実践的な技術を身に付けることを目的とする。

到達目標

・年齢に合った手遊びやリズム遊びを理解し、表現することができる
・保育者として、状況に合わせて様々な手遊びや音楽遊びを表現し、指導することができる

【前期】

１．オリエンテーション(領域「表現」と音楽表現について、手遊び・音楽遊び・リズム遊びについて)
２．手遊び・指遊び①、身体表現①、わらべうた①、発声について①
３．　〃　②、　〃　②、　〃　②、　〃　②
４．　〃　③、　〃　③、　〃　③、リトミックについて①、音楽遊び・リズム遊び①
５．　〃　④、　〃　④、　〃　④、　〃　②、　〃　②
６．　〃　⑤、　〃　⑤、　〃　⑤、　〃　③
７．　〃　⑥、　〃　⑥、　〃　⑥、拍子(2・3・4拍子)の捉え方
８．　〃　⑦、　〃　⑦、　〃　⑦、絵かきうた・数字のうた・手遊び（グループで考え発表)
９．　〃　⑧、　〃　⑧、　〃　⑧、ごっこ遊び、ダンス振付
10. 音楽遊び①、手遊び・指遊び⑨、身体表現⑨、わらべうた⑨、楽器遊び①、ダンス①
11. 〃　②、　〃　⑩、　〃　⑩、　〃　⑩、　〃　②、〃　②
12. まとめ①、準備
13. 〃　②、準備
14. 〃　③、手遊び個人発表
15. 〃　④、復習、グループ発表

事前・事後学習の内容

・年齢や状況に合わせた手遊びを練習し考えておくこと
・歌唱やピアノの練習で音程を学ぶ以外に、音楽に合わせて体を動かしリズムも意識すること

評価の方法・基準

・発表〈個人（40%）・グループ（40%）〉、出席状況および授業態度（15%)、課題（5%）

教科書

・『声楽〈声楽教本〉』(近畿大学九州短期大学通信教育部)、『音楽〈ピアノ教本〉』(近畿大学九州短期大学通信教育部)
・『保育実用書シリーズ　こどものうた200』(チャイルド社)、『保育実用書シリーズ　続こどものうた200』(チャイルド社)
・『楽しい音楽表現』(圭文社)、プリント配布

備考

授業科目	劇遊び（指導法）			担当者	樋野本　順子		実務経験
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	保育１年	時間数（単位数）	３０（1）

授業の目的・内容

劇遊びを行う上で必要な、身体活動や想像力を豊かにする活動を通して、自己発見と他者理解力を高める。模擬保育として、クラスメイトの前で身体表現活動を発表し、技術を高める。オペレッタや劇づくりを行い実践する。

到達目標

・子どもの身体表現の基本的知識を理解し、子どものもつ感性や表現力を引き出すための指導方法、援助方法を体得する
・感性を磨きイメージを豊かにし、保育者に必要な発想力・表現力を習得する
・クラスメイトと共に協力して一つのものを仕上げることを通して、協働、共生の意味を理解する

授業計画

【前期】

１．オリエンテーション
２．劇内容を考える①
３．　〃　②
４．制作・演出・指導方法・劇部分練習①
５．　〃　②
６．　〃　③
７．　〃　④
８．　〃　⑤
９．　〃　⑥
10．劇（部分練習・通し練習）①、制作
11．　〃　②、制作
12．　〃　③、制作
13．　〃　④、制作
14．劇(発表)テスト
15．劇(発表　幼稚園訪問)、片付け、振り返り、まとめ

事前・事後学習の内容

・配役の表現方法について調べ、練習する
・クラスメイトと協力して動きや表現活動の練習を行う
・活動の反省、感想、指導法をノートに整理しておく

※実習着、シューズで授業に参加すること

評価の方法・基準

・出席と授業への取り組み（70%）、発表・レポート（30%）

教科書

『幼稚園教諭・保育士をめざす　楽しい音楽表現』（圭文社）

備考

授業科目	幼児と音楽表現			担当者	相川　万里子		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育１年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

保育者としてピアノを使い弾き歌いをすることは、子ども達にとって生活や季節を感じること、体を使い表現することなどの雰囲気を演出するにおいて大事な役割である。

・基礎的な楽典を理解し、季節や生活に合わせた弾き歌い曲を練習し習得する
・ハ長調のほかにト・へ・二長調の音階やコードも練習し習得する
・毎週レッスンと課題小テストを行い、個々に合った練習方法で演奏技術の向上を目的とする

到達目標

現場で必要なピアノ技術やコードを使って奏する力、弾き歌い技術の習得、向上を目標とする。

・楽譜を読み、音程や音階を理解し歌唱やピアノで表現することができる
・ハ・ト・へ・二長調の音階やコードを理解することで弾き歌い曲のレパートリーを増やし、歌い示すことができる

授業計画

【後期】

１．レッスン（バイエル・弾き歌い曲）①、小テスト①、コード・音階(Cdur)①
２．　〃　②、　〃　②、　〃　②
３．　〃　③、　〃　③、　〃　③
４．　〃　④、　〃　④、新しいコードGdurについて
５．　〃　⑤、　〃　⑤、コード・音階(Gdur)①
６．　〃　⑥、　〃　⑥、　〃　②
７．　〃　⑦、　〃　⑦、　〃　③
８．　〃　⑧、　〃　⑧、新しいコードFdurについて
９．　〃　⑨、　〃　⑨、コード・音階(Fdur)
10．　〃　⑩、　〃　⑩、新しいコードDdurについて
11．　〃　⑪、　〃　⑪、コード・音階(Ddur)
12．　〃　⑫、復習①、コード・音階(Ddur)
13．　〃　⑬、〃　②
14．　〃　⑭、〃　③、発表
15．まとめ、実技試験

事前・事後学習の内容

・譜読み(拍子・調号・音程・リズム・指番号の確認)→片手練習→両手練習→部分練習→強弱を練習→リズムや速度を変えての練習　などを繰り返すこと。
・ゆっくり丁寧な練習を心がける

評価の方法・基準

・実技試験（ 課題曲<弾き歌い>・自由曲<ピアノ曲>）(85%)
・出席状況および授業態度、課題へ取り組む姿勢、小テスト（15%）

教科書

・『声楽<声楽教本>』（近畿大学九州短期大学通信教育部）　・『音楽<ピアノ教本>』（近畿大学九州短期大学通信教育部）
・『保育実用書シリーズ　こどものうた200』（チャイルド社）・『保育実用書シリーズ　続こどものうた200』（チャイルド社）
・『ピアノ学習者のためのやさしい楽典』（ドレミ楽譜）　・プリント配布

備考

授業科目	教育実習事前事後指導Ⅰ			担当者	河地　あすか		実務経験 ○
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育１年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

教育実習の事前事後指導を行う授業である。教育実習に参加する学生は必ず受講をしなければならない。事前指導では、教育実習が円滑に実践できるように、教育実習の意義や概要、実習の基本姿勢、実習日誌の書き方等の習得をする。また、指導計画の立案・実践に取り組み、それらの学びを通して、ねらいや目標をもって、実習に取り組むことができるようにする。事後指導では、実習の学習内容を振り返り自己課題の発見に努める。

到達目標

・実習の意義と目的を理解する。
・実習生としてふさわしい姿勢や態度を身に付けることができる。
・実習日誌、指導案の書き方が理解できる。

授業計画

【後期】

１．教育実習の概要
２．教育実習の意義と目的
３．教育実習の手続き
４．幼稚園の一日の流れと幼稚園教諭の職務内容
５．実習生としての心構え①
６．　〃　②
７．実習日誌の書き方①（幼稚園教諭の一日を追って）
８．　〃　②
９．　〃　③
10．　〃　④
11．指導案の書き方
12．部分実習（模擬保育）①
13．部分実習（模擬保育）②
14．部分実習（模擬保育）③
15．１年後期のまとめと課題

事前・事後学習の内容

・実習で必要な姿勢や態度は日常生活から取り組み、授業で学んだことを実践する。
・ボランティア活動に積極的に参加し子どもや保護者と関わる機会をつくる。
・日頃から親子に関心をもって、保護者や子どもの様子を観察する。

評価の方法・基準

・受講態度（80%）、提出物（20%）※出席状況（欠席３回の場合は実習延期の場合有）

教科書

・『学び続ける保育者を目指す実習の本（保育所・施設・幼稚園）』（萌文書林）
・『幼稚園教育要領解説（文部科学省）』（フレーベル館）
・プリント配布

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、実習生としての心構え、マナー、実習記録の方法等について指導する。

授業科目	音楽(基礎)			担当者	相川　万里子		実務経験
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	保育1年	時間数（単位数）	３０（1）

授業の目的・内容

保育者としてピアノを使い弾き歌いをすることは、子ども達にとって生活や季節を感じること、体を使い表現するなどの雰囲気を演出することにおいて大事な役割である。

・楽典で楽譜の読み方(調号拍子・音符やリズム・強弱など)やピアノ奏法の基礎を学び、季節に合わせた弾き歌い曲を練習し習得する(ハ長調)

・毎週課題に対してレッスンを行い、個々に合う練習方法を知り行うことで演奏技術の向上を目的とする

到達目標

現場で必要な音楽の知識を身に付け、楽典やピアノや弾き歌いの実技能力の基礎を習得することを目標とする。

・楽譜の読み方を理解することができる　・ピアノ奏法(指使い)を守って弾くことができる

・ハ長調のコードを覚え、簡単な伴奏を付けられる　・ハ長調の弾き歌いができる

授業計画

【前期】

1．オリエンテーション(自己紹介、授業説明、ピアノ室の使用方法・レッスンについて、課題発表)

2．楽典①、ピアノ奏法基礎①、ﾚｯｽﾝ①、季節・生活の歌①、小テスト①、Cdur(コード・音階)①、歌唱基礎①

3．〃②、〃②、〃②、〃②、〃②、〃②、〃②

4．〃③、〃③、〃③、〃③、〃③、〃③、〃③

5．〃④、〃④、〃④、〃④、〃④

6．〃⑤、〃⑤、〃⑤、〃⑤、〃⑤

7．〃⑥、〃⑥、〃⑥、〃⑥、〃⑥

8．〃⑦、〃⑦、〃⑦、〃⑦、〃⑦、バイエル①

9．〃⑧、〃⑧、〃⑧、〃⑧、〃⑧、〃②

10．〃⑨、〃⑨、〃⑨、〃⑨、〃⑨、〃③

11．〃⑩、〃⑩、〃⑩、〃⑩、〃⑩、〃④、まとめテストについて

12．復習①、まとめ①、レッスン⑪

13．復習②、〃②、〃⑫、筆記試験

14．復習③、〃③、〃⑬

15．復習④、〃④、実技試験

事前・事後学習の内容

・譜読み(拍子・調号・音程・リズム・指番号の確認)→片手練習→両手練習→部分練習→強弱を練習→リズムや速度を変えての練習　などを繰り返すこと。

・ゆっくり丁寧な練習を心がける

評価の方法・基準

・実技試験（課題曲<弾き歌い>・自由曲<ピアノ曲>）(80%)

・出席状況および授業態度、課題へ取り組む姿勢、小テスト（20%)

教科書

・『声楽<声楽教本>』(近畿大学九州短期大学通信教育部)、『音楽<ピアノ教本>』(近畿大学九州短期大学通信教育部)

・『保育実用書シリーズ　こどものうた200』(チャイルド社)、『保育実用書シリーズ　続こどものうた200』(チャイルド社)

・『ピアノ学習者のためのやさしい楽典』(ドレミ楽譜)、プリント配布

備考

授業科目	歌唱			担当者	相川　万里子		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育１年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

・幼児期に唄われるわらべうた、唱歌、童謡をはじめ、心にのこる日本の歌など、様々な「うた」を音楽知識と共に歌唱学習する

・呼吸法、発声法の歌唱基礎を学び、幼児の音楽活動に対して適切な指導や援助ができるよう、内面的感性、歌唱力、表現力を身に付ける

到達目標

・さまざまな季節の歌・生活の歌を理解し、歌唱で表現できる

・正確な音程を理解し、ピアノ伴奏に合わせ歌い示すことができる

・保育者として、歌唱の指導・援助ができる

授業計画

【後期】

1．発声・呼吸法①、季節・生活の歌①、ソルフェージュ①、わらべうた・手遊びうた・合唱・劇中歌・他

2．〃 ②、〃 ②、〃 ②、〃

3．〃 ③、〃 ③、〃 ③、〃

4．〃 ④、〃 ④、〃 ④、〃

5．〃 ⑤、〃 ⑤、〃 ⑤、〃

6．〃 ⑥、〃 ⑥、〃 ⑥、〃

7．〃 ⑦、〃 ⑦、〃 ⑦、〃

8．〃 ⑧、〃 ⑧、〃 ⑧、〃

9．〃 ⑨、〃 ⑨、〃 ⑨、〃

10．〃 ⑩、〃 ⑩、〃 ⑩、〃

11．〃 ⑪、〃 ⑪、〃 ⑪、〃

12．〃 ⑫、〃 ⑫、〃 ⑫、〃

13．復習①、試験対策(ペア練習)

14．〃 ②、試験対策(ペア練習)

15．まとめ、実技試験

事前・事後学習の内容

・発声法や日本語の発音などを日頃から意識しておく

・授業で習った歌を、音程に気を付けて自主練習すること

評価の方法・基準

・実技試験（課題曲<ソロ・ペア>）（80%）、出席状況および授業態度、課題へ取り組む姿勢（20%）

教科書

・『声楽<声楽教本>』（近畿大学九州短期大学通信教育部）　・『音楽<ピアノ教本>』（近畿大学九州短期大学通信教育部）

・『保育実用書シリーズ　こどものうた200』（チャイルド社）　・『保育実用書シリーズ　続こどものうた200』（チャイルド社）

・『ピアノ学習者のためのやさしい楽典』（ドレミ楽譜）　・プリント配布

備考

授業科目	事前保育教育観察実習 （幼稚園・保育所）			担当者	樋野本　順子 河地　あすか		実務経験
履修方法	実習	期間	通年	学科・学年	保育１年	時間数 （単位数）	３０ （1）

授業の目的・内容

２年次・3年次の2週間の実習に向けて事前準備の１つとして見学実習を実施する。幼稚園、保育所において1日実習に取り組み、幼稚園、保育所の様子、乳幼児の様子、保育者の関わり等を見学、観察をする。実習を通して、学んだり、感じたりしたことを今後の授業に生かすことを目的とする。

到達目標

・幼稚園、保育所の一日の流れを理解する。
・幼稚園、保育所の乳幼児の子どもの様子を観察する。
・保育者の子どもへの関わりを観察する。

授業計画

≪幼稚園見学観察実習≫
・実習の心構え
・実習日誌の書き方
・幼稚園教育の基本理解（幼稚園教育要領）
・発達の特徴の理解（3～5 歳児）
・部分実習の教材研究と立案、模擬保育実践と反省、改善（グループ演習）
・学内オリエンテーション
・1 日観察実習
・実習報告会
≪保育所見学観察実習≫
・実習の心構え
・実習日誌の書き方
・保育所保育の基本理解（保育所保育指針）
・発達の特徴の理解（乳児～5 歳児）
・観察実習の目標（グループ討議）
・学内オリエンテーション
・1 日観察実習
・実習報告会

事前・事後学習の内容

・保育者としての立ち居振る舞いや言葉遣いを普段から意識して生活しておくこと。
・普段の生活の中で、養育者や乳幼児に興味、関心をもち、観察をしておくこと。
・実習での学習内容を学内での授業と関連付けながら受講し学びを深めること。

評価の方法・基準

・出席状況、受講態度（30%）、提出物（20%）、実習の姿勢や態度（20%）、実習報告内容と姿勢（30%）

教科書

・使用しない。

備考

授業科目	社会貢献活動Ⅰ			担　当　者	こども保育学科　教員		実務経験
履修方法	実習	期　　間	通年	学科・学年	保育１年	時　間　数 （単位数）	９０ （2）

授業の目的・内容

養成校の近隣地域の企業・施設での貢献活動を通して、地域の人々とコミュニケーションをはかり役割や支援について考え、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解する。

到達目標

・リーダーシップとフォロワーシップを実践的に学び、チームをマネジメントする力が持てる。
・対象者（高齢者・乳幼児・乳幼児の保護者）の安心した生活を支えるための実践力を身につける。
・地域に住む対象者（高齢者・乳幼児・乳幼児の保護者）を支える制度や支援体制について学ぶ。

授業計画

【前期】

１．目的理解
２．導入講座
３．グループでの活動検討
４．貢献活動①
５．　〃　②
６．　〃　③
７．　〃　④
８．　〃　⑤
９．中間振り返り
10．貢献活動⑥
11．　〃　⑦
12．　〃　⑧
13．　〃　⑨
14．　〃　⑩
15．振り返り

【後期】

16．貢献活動⑪
17．　〃　⑫
18．　〃　⑬
19．　〃　⑭
20．　〃　⑮
21．中間振り返り
22．貢献活動⑯
23．　〃　⑰
24．　〃　⑱
25．　〃　⑲
26．　〃　⑳
27．活動報告会準備①
28．　〃　②
29．　〃　③
30．活動報告会

事前・事後学習の内容

・活動前に必ず活動内容、役割分担を理解しておくこと

評価の方法・基準

・出席状況（60%）　取り組み姿勢（40%）

教科書

・なし

備考

授業科目	総合演習			担当者	樋野本　順子		実務経験
履修方法	演習	期間	通年	学科・学年	保育１年	時間数（単位数）	３０（1）

授業の目的・内容

一週間の学びを振り返り次週に向けて自身の課題を確認する。また、知識、技術及び人間力を高める活動とは何かをクラス全体で考え実践する。

自分ができる社会貢献活動に取り組む。

到達目標

・1 年後の自己目標を立て、目標に向けて 1 年間充実した学校生活を送る。
・知識、技術、人間力を高める。

授業計画

【通年】

1．オリエンテーション（学生便覧・教科について）
2．今週の振り返り ①・クラス活動・委員会決め　ボランティアについて
3．　〃　②保育者について考えてみよう
4．　〃　③保育・福祉ナビ
5．　〃　④クラス活動　今後の活動について　計画・立案
6．　〃　⑤　〃
7．　〃　③　〃
8．　〃　④　〃
9．　〃　⑤　〃
10．　〃　⑥　〃
11．　〃　⑦　〃
12．　〃　⑧　〃
13．　〃　⑨　〃
14．　〃　⑩　〃
15．まとめ

事前・事後学習の内容

・保育者を生活態度（言葉・行動）を意識し過ごすこと。
・日々の必要な連絡を癖づけること、自分の課題への取り組みについて分からないことがあれば、相談や報告をすること。
・3 年後の自分の目標を立てる。
・週末などに開催される保育・福祉ナビ等に参加する。

評価の方法・基準

・計画に沿った活動と振り返りシート提出（50%）、協働的取り組み(50%)、

教科書

備考

２年

カリキュラム・マップ（こども保育学科）

2025年度入学生用

＜ディプロマ・ポリシー（DP）＞

1）保育・福祉における様々な課題をとらえ、現場で支援・指導するための**専門的知識及び技能(DP1)**を身に付ける。
2）保護者、地域、多職種と円滑に**コミュニケーションをはかる能力(DP2)**を兼ね備え、保育・福祉の現場で実践できる能力を身に付ける。
3）保育・福祉に携わる社会人として相応しい**倫理観、使命感・責任感、やさしさと思いやり(DP3)**を持って行動できる。

区分	履修科目名	履修学年	履修時間	単位	DP1	DP2	DP3
基礎分野	日本国憲法	1	30	2	◎		○
	生涯スポーツ	1	45	1	◎	○	
	健康科学	1	15	1	◎	○	
	情報処理	1	60	2	◎	○	
	英会話	1	60	2	◎	○	
専門分野	保育原理	2	30	2	◎		
	教育原理	1	30	2	◎		
	子ども家庭福祉	2	30	2		◎	
	社会福祉	1	30	2	◎		
	子ども家庭支援論	2	30	2		◎	
	社会的養護Ⅰ	1	30	2	◎		
	社会的養護Ⅱ	2	30	1	◎		
	教職概論	1	30	2	◎		
	教育課程総論	1	30	2	◎		
	教育方法論	1	30	2	◎		
	保育の心理学	3	30	2	◎		
	子ども家庭支援の心理学	2	30	2		◎	
	教育心理学	1	30	1	◎	○	
	幼児の心理学	1	15	1	◎	○	
	子どもの保健	2	30	2	◎	○	
	子どもの食と栄養	2	60	2	◎	○	
	保育内容総論	2	30	1	◎	○	
	健康（指導法）	1	30	1	◎	○	
	人間関係（指導法）	3	30	1	◎	○	
	環境（指導法）	1	30	1	◎	○	
	言葉（指導法）	1	30	1	◎	○	
	造形表現（指導法）	1	60	2	◎	○	
	音楽表現（指導法）	1	30	1	◎	○	
	劇遊び（指導法）	1	30	1	◎	○	
	幼児と音楽表現	1	30	1	◎	○	
	音楽表現技術	2	30	1	◎	○	
	幼児と造形表現	2	30	1	◎	○	
	幼児と健康	2	30	1	◎	○	
	幼児と言葉	2	15	1	◎	○	
	幼児と人間関係	3	15	1	◎	○	
	幼児と環境	2	15	1	◎	○	
	幼児体育	2	15	1	◎	○	
	言語表現	2	30	1	◎	○	
	乳児保育Ⅰ	3	30	2	◎	○	
	乳児保育Ⅱ	3	30	1	◎	○	

区分	履修科目名	履修学年	履修時間	単位	DP1	DP2	DP3
専門分野	子どもの健康と安全	3	30	1	◎	○	
	障害児保育	2	30	1	◎	○	
	幼児への特別な支援	3	15	1	◎	○	
	子育て支援Ⅰ	2	30	1	◎	○	
	教育相談	2	30	2	◎	○	
	保育・教職実践演習	3	60	2	◎	○	○
	保育実習Ⅰ（保育所）	2	90	2	◎	○	
	保育実習Ⅰ（施設）	3	90	2	◎	○	
	保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所）	2	30	1	◎	○	
	保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）	2	30	1	◎	○	
	保育実習Ⅱ	3	90	2	◎	○	
	保育実習事前事後指導Ⅱ	3	30	1	◎	○	
	教育実習Ⅰ	2	90	2	◎	○	
	教育実習事前事後指導Ⅰ	1	30	1	◎	○	
	教育実習Ⅱ	3	90	2	◎	○	
本学開講専門分野	音楽（基礎）	1	30	1	◎	○	
	音楽（応用）	2	30	1	◎	○	
	音楽（実践）	3	60	2	◎	○	
	歌唱	1	30	1	◎	○	
	障害の理解Ⅰ	2	30	1	◎	○	
	障害の理解Ⅱ	2	30	1	◎	○	
	教育実習事前事後指導Ⅱ	2	30	1	◎	○	
	事前保育教育観察実習（幼稚園・保育所）	1	30	1	◎	○	
	保育特論Ⅰ	2	30	1			○
	保育特論Ⅱ	3	60	2			○
	社会貢献活動Ⅰ	1	90	2		○	◎
	社会貢献活動Ⅱ	2	90	2		○	◎
	社会貢献活動Ⅲ	3	90	2		○	◎
	総合演習	1	30	1			◎
	就職実務Ⅰ	2	30	2			◎
	就職実務Ⅱ	3	30	2			◎
選択必修	ＩＣＴスキル講座	3	30	1	◎	○	
	おやつと食育	3	30	1	◎	○	
	環境と自然	3	30	1	◎	○	
	チャイルドスポーツ	3	30	1	◎	○	
	チャイルドミュージック	3	30	1	◎	○	
	チャイルドアート	3	30	1	◎	○	
選択	介護実務者研修Ⅰ	2	230	7	◎		○
	介護実務者研修Ⅱ	3	230	7	◎		○
				◎の科目数	68	3	6
				○の科目数	0	59	5

◎：科目の到達目標が該当のDPに直結する科目（各科目１つのみ◎をつける）

○：科目の到達目標が該当のDPに関連する科目（各科目複数の○をつけてもよい）

授業科目	保育原理			担当者	河地　あすか		実務経験
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	保育２年	時間数（単位数）	３０（２）

授業の目的・内容

近年の社会状況から保育制度は次々と改変され、保育所・幼稚園・こども園の役割は大きくなると同時に、そこで働く保育者にも資質の向上が求められている。本講義では、保育の基本的概念・基本理念と保育に携わってきた歴史上の人物を通して、保育において重要とされている原理を理解していく。また、現代社会において、求められる保育者としての役割や資質・能力を理解し、自身の向上を目指す。

到達目標

・保育の基本的概念、理念を理解する。
・代表的な幼児教育者（諸外国・日本）の思想と歴史的変遷を理解する。
・保育者に求められる役割と資質・能力等の専門性を理解する。

授業計画

【前期】

１．「保育」とは何か
２．幼稚園・保育所・認定こども園における保育の目標、目的
３．保育の基本「子ども理解」①
４．　〃　②
５．保育の内容①
６．　〃　②
７．保育の方法①
８．　〃　②
９．保育の計画と評価①
10．　〃　②
11．保育と子育て支援①
12．　〃　②
13．保育者の専門性と資質の向上①
14．　〃　②
15．まとめ

事前・事後学習の内容

・事前にテキストを読み予習をしておくこと。
・子どもや保育、子育てに関するニュースや情報に興味関心をもち情報を収集すること。
・毎授業後、リアクションペーパーの記入をすること。

評価の方法・基準

・受講態度（出席状況・グループワーク・報告姿勢を含む）（20%）・リアクションペーパーの提出（10%）
・筆記試験（70%）

教科書

・『保育原理』（ミネルヴァ書房）
・『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）
・『保育所保育指針解説』（厚生労働省）
・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省）

備考

授業科目	子ども家庭福祉			担当者	豊田　奈未		実務経験
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	保育２年	時間数（単位数）	３０（2）

授業の目的・内容

児童福祉から、子どもが生まれ育つ家庭と地域を含めた「子ども家庭福祉」へと変化してきた背景を理解する。

子育て支援に関する施策や地域の子育て支援について学び、専門職や児童福祉施設、支援に関わる機関、支援方法等について理解する。

到達目標

・子どもの家庭環境の変化を多角的な視点から理解できる。
・養護を必要とする子どものための施設について理解できる。
・子どもの虐待に対応する機関及び施設について理解できる。
・障害がある子どもたちの支援について理解できる。
・地域実践されている子育て支援施策について理解できる。

授業計画

【前期】

１．「児童福祉」から「子ども家庭福祉」へと変化した理由
２．子どもの家庭環境の変化
３．児童福祉法に基づく児童福祉施設
４．児童福祉施設における「自立支援」
５．養護を必要とする子どものための施設
６．障がいがある子どもたちの施設の種別と内容、障害を持つ子どもへの福祉施策
７．児童相談所の役割と機能
８．福祉事務所が取り扱う児童福祉に関する業務内容
９．子どもの健全育成と施設・制度
10．子どもの虐待の現状と子どもの虐待の未然防止、対応する機関及び施設
11．子ども子育て支援新制度における、幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園のそれぞれを利用する手続き、認定について
12．待機児童問題を解消するための施策
13．認定こども園が必要とされる理由
14．仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）のための就労支援
15．まとめ

事前・事後学習の内容

・授業内容をふまえ、授業のまとめとして課題レポートの提出をする。

評価の方法・基準

・筆記試験（50%）、レポート提出（35%）、授業などの取り組み（15%）など総合的に評価する。

教科書

・大津泰子『児童家庭福祉　子どもと家庭を支援する』（ミネルヴァ書房）

備考

授業科目	子ども家庭支援論			担当者	河地　あすか		実務経験
履修方法	講義	期間	後期	学科・学年	保育２年	時間数（単位数）	３０（2）

授業の目的・内容

子ども家庭支援の現状、課題について理解する。
子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。
子育て家庭に対する支援方法について理解する。

到達目標

・子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。
・保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。
・子育て家庭に対する支援の体制について理解する。
・子育て家庭ニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。

授業計画

【後期】

1．子ども家庭支援の意義と役割
2．子ども家庭支援の目的と機能
3．保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
4．子どもの育ちの喜びの共有
5．保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
6．保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等）
7．家庭の状況に応じた支援
8．地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力
9．子育て家庭の福祉を図るための社会資源
10．子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
11．多様な支援の展開と関係機関との連携
12．子ども家庭支援の内容と対象
13．保育所等を利用する子どもの家庭への支援
14．要保護児童等及びその過程に対する支援
15．まとめ

事前・事後学習の内容

・授業後に設題に基づきレポート作成、提出をする
・近隣の保護者支援、家庭支援を実施している社会資源に興味関心をもつ
・子どもや保護者を取り巻く社会問題やその対応や支援に関する情報を収集する

評価の方法・基準

・レポート提出（２冊）提出（50%）　近畿大学九州短期大学科目終末試験（50%）

教科書

・橋本真紀・山縣文治編『よくわかる家庭支援論』（ミネルヴァ書房）

備考

授業科目	社会的養護Ⅱ			担当者	上栗　明男		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育２年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

要養護児童・被虐待児童・情緒的問題を抱える児童について、その適切なかかわりのために「子ども役」と「援助者役」を演ずる模擬面接や、独特な行動や言動をする子どもたちに対応する模擬体験を通じて実践感覚を養う。また、グループ討議によって、要保護児童を取り巻く社会資源の活用法も学ぶ。

到達目標

・子どもと家庭の課題や入所理由の背景を深く探ることによって、子どもの行動の意味を理解し、適切な援助や対応につなげることができる。

授業計画

【後期】

１．子どもの面接技法とコミュニケーション技法
２．模擬面接　事例１「家出・非行をもった女児のケース」
３．　〃　　事例２「不登校・非行をもった男児のケース」
４．　〃　　事例３「家庭内暴力・非行をもった女児のケース」
５．　〃　　事例４「性的虐待を受けた女児のケース」
６．虐待が与える子どもへの影響と特性
７．タイムアウト法（ビデオ視聴）
８．セラピューティックホールド法（ビデオ視聴）
９．記録の意義とその取り方（叙述体と要約体）
10．子ども虐待のサインとチェックポイント
11．作詩療法　事例８「詩集『花火』」から
12．グループ討議①　事例７「被虐待児家庭の見守り」
13．　〃　②　事例９「育児不安家庭への危機介入」
14．　〃　③　保育現場のリスクマネージメント
15．まとめとレポート作成

事前・事後学習の内容

・最近のマスメディアで報道される「児童虐待事案」や児童福祉に関する施策・法改正について関心を持っておくこと。

評価の方法・基準

・レポートを基本とするが（90%）、授業への取り組み（模擬面接・模擬体験への参加・授業への関心度・マナー等）（10%）も加味する。

教科書

・プリント配布

備考

授業科目	子ども家庭支援の心理学			担当者	河地　あすか		実務経験
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	保育２年	時間数（単位数）	３０（２）

授業の目的・内容

子育て家庭の支援について理解するために、「生涯発達に関する心理学の基礎知識」、「家族・家庭の意義・機能および子育て家庭をめぐる社会的状況と課題」、「子どもの精神保健とその課題」を学ぶ。また、この学びを通して、子どもの現在の姿を形成する発達や家庭環境を理解し、子どもや子どもを取り巻く人々の発達と健康を支援する保育者を目指す。

到達目標

・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得する。
・家族や家庭の意義や機能を理解し、子どもを含めた家庭を包括的に捉える視点をもつ。
・子育て家庭をめぐる現代の社会状況、子どもの精神保健の課題について理解する。

授業計画

【前期】

１．乳児期の発達
２．幼児期の発達
３．学童期の発達
４．青年期の発達
５．成人期・中年期・高齢期の発達
６．家族・家庭の意義と機能
７．家族関係・親子関係の理解
８．子育ての経験と親としての育ち
９．子育てを取り巻く社会的状況
10．ライフコースと仕事・子育て
11．多様な家庭とその理解
12．特別な配慮を要する家庭
13．子どもの生活・生育環境とその影響
14．子どもの心の健康に関わる問題
15．まとめ

事前・事後学習の内容

・事前にテキストを読んでおくこと
・授業毎に復習をすること
・子育てをめぐる様々なニュースに関心をもち、読んでおくこと。

評価の方法・基準

・レポート提出２冊（50%）・近畿大学九州短期大学科目終末試験（50%）

教科書

・『子ども家庭支援の心理学』（中央法規）

備考

授業科目	子どもの保健			担当者	関　純子		実務経験
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	保育２年	時間数（単位数）	３０（２）

授業の目的・内容

小児の概念を小児期の心身の成長・発達および小児を取り巻く社会の動きから把握する。
各年齢の特徴、疾病の特徴について学び、疾病予防のための生活・環境条件について理解する。
小児期に起こりやすい事故について学び、その予防についての知識を習得する。

到達目標

・統計からみた小児保健水準、保健対策について述べることができる。
・小児期の代表的な疾患について、その特徴が説明できる。
・小児期に起こりやすい代表的な感染症について、その特徴と予防法、対策が説明できる。
・小児期に起こりやすい事故について、その予防策が説明できる。

授業計画

【前期】

１．統計から見た小児保健水準、母子保健、小児保健行政について
２．子どもの発育の原則
３．子どもの身体発育の特徴
４．子どもの生理機能の発達と保健　各器官の特徴①
５．　〃　②
６．子どもの諸機能の発達と保健①
７．　〃　②
８．小児疾病①　先天異常、肢体不自由、重症心身障害
９．　〃　②　循環器疾患、呼吸器疾患
10．　〃　③　消化器疾患、腎、血液疾患
11．小児の感染症①
12．　〃　②
13．子どもの発疹、保育所での感染症の取り扱い、予防接種
14．子どもの事故とその予防策
15．まとめ

事前・事後学習の内容

・レポート「月齢ごとに起こりやすい子どもの事故とその予防策」
・授業初めに前回の内容の小テストを実施するので復習しておく

評価の方法・基準

・筆記試験(70%)　小テスト(20%)　レポート(10%)

教科書

・『新版　よくわかる子どもの保健』（ミネルヴァ書房）
・『子どもの保健と安全 演習ブック』（ミネルヴァ書房）

備考

授業科目	子どもの食と栄養			担当者	斎木　亜子		実務経験
履修方法	演習	期間	通年	学科・学年	保育２年	時間数（単位数）	６０（２）

授業の目的・内容

栄養学の基礎知識、胎児期・乳児期・幼児期・学齢期の各ライフステージ別に食生活の特徴や問題点を学ぶことにより、子どもを見守る保育者として食事・食育の重要性を理解する。

到達目標

・栄養に関する基本的な知識を自分の食生活の見直しに活用できる。
・子どもの発育・発達に対応した食生活の面からの支援ができる。
・食物アレルギーについて理解を深める。
・食育についての教材に関心をもつ。

授業計画

【前期】

１．なぜ食と栄養を学ぶのか（食生活指針）
２．子どもの心身の健康と食生活
３．栄養・食品の知識①：３大栄養素
４．　〃　②：無機質・ビタミン、食事摂取基準
５．子どもの発育・発達と食生活（食べる機能）
６．幼児期の食生活①：幼児期栄養の特徴
７．　〃　②：食生活への配慮
８．食物アレルギーについて
９．妊娠期・胎児期の食生活
10．乳児期の食生活①：乳汁栄養
11．　〃　②：離乳食
12．学齢期・思春期の食生活
13．児童福祉施設における食生活
14．障がいのある子どもの食生活、食育について
15．まとめ

【後期】

16．≪演習≫離乳食①
17．≪演習≫　〃　②
18．≪演習≫食育①：絵本の中の食べ物①
19．≪演習≫　〃　②：　〃　②
20．≪演習≫　〃　③：災害時の食事
21．≪演習≫　〃　④：簡単アイスクリーム
22．≪演習≫　〃　⑤：さつまいもドーナツ
23．≪演習≫　〃　⑥：恐竜卵&イースターエッグ
24．≪演習≫　〃　⑦：あぶりだし
25．≪演習≫幼児のお弁当：話し合い
26．≪演習≫　〃　：買い物から調理①
27．≪演習≫　〃　：買い物から調理②
28．≪演習≫食物アレルギーの子どものおやつ①
29．≪演習≫　〃　②
30．≪演習≫行事食：クリスマス

事前・事後学習の内容

・教科書の該当範囲を事前に読んでおく。
・テーマごとに与えられた問題について、まとめる。

評価の方法・基準

・期末試験（25%）、課題レポート（25%）、演習レポート（50%）

教科書

・『子どもの食と栄養』（北大路書房）

備考

授業科目	保育内容総論			担当者	河地　あすか		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育２年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の保育内容の全体構造について学ぶ。また、幼児教育・保育の基本についての学びを深め、保育を実践できる基礎知識、応用力を習得することを目的とする。

到達目標

・保育所、幼稚園、こども園の保育内容について総合的に理解をする。
・子どもの発達の特性と保育内容、方法について理解をする。
・環境を通した保育、養護と教育の一体化、総合的な指導について理解を深める。

授業計画

【前期】

１．保育の基本及び保育内容の理解（幼稚園・保育所・こども園）
２．保育の目的・目標・内容の関係の理解
３．子どもの発達や生活に即した保育内容Ⅰ（3 歳未満児）
４．0 歳児～2 歳児の発達と保育内容の理解
５．子どもの発達や生活に即した保育内容Ⅱ（3 歳以上児）
６．3 歳児～5 歳児の発達と保育内容の理解
７．養護と教育が一体的に展開する保育
８．養護と教育の一体的な保育の理解（3 歳未満児の遊びから）
９．環境を通して行う保育
10．事例から環境の構成を考える
11．生活や遊びによる総合的な保育
12．総合的な保育の理解
13．生活や発達の連続性に考慮した保育
14．発達や学びの連続性の理解
15．まとめ

事前・事後学習の内容

・毎授業において予習内容を明示するので取り組むこと。
・授業後に配布するワークシート記入を通して復習をすること。

評価の方法・基準

・受講態度、出席状況（30%）、ワークシート提出（20%）
・グループ演習によるディスカッションと発表（50%）

教科書

・『マンガとアクティブラーニングで学ぶ保育内容総論[第２版]』（保育出版社）
・『幼稚園教育要領解説（文部科学省）』（フレーベル館）
・『保育所保育指針解説（厚生労働省）』（フレーベル館）

備考

授業科目	音楽表現技術			担当者	香山 泉		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育２年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

保育・幼児教育現場で必要とされる弾き歌い実践力、即興能力(子どもの状況に合わせ奏する対応力)、表現力などの向上のため、毎週レッスンと小テストを行い、個々に合わせた練習のやり方で演奏技術の習得を目的とする。

・季節や生活に合わせた弾き歌い曲を練習し習得する

・ソナチネ(1 曲以上)を丁寧に譜読みし後期の発表に向けて練習する

到達目標

保育者として、現場で必要なピアノ技術やコードを使って奏する応用力や、弾き歌い技術の向上・習得を目標とする。

・楽譜を読み、音程や音階を理解し歌唱やピアノで表現することができる

・コードで自由に伴奏を付け歌い示すことができる。・ソナチネを丁寧に譜読みし演奏することができる

授業計画

【後期】

１．レッスン（バイエル・ソナチネ・弾き歌い曲）①、小テスト①、コード①、歌唱①
２．〃 ②、〃 ②、〃 ②、〃②
３．〃 ③、〃 ③、〃 ③、〃③
４．〃 ④、〃 ④、〃 ④、〃④
５．〃 ⑤、〃 ⑤、〃 ⑤、〃⑤
６．〃 ⑥、〃 ⑥、〃 ⑥、〃⑥
７．〃 ⑦、〃 ⑦、〃 ⑦、〃⑦
８．〃 ⑧、〃 ⑧、〃 ⑧、〃⑧
９．〃 ⑨、〃 ⑨、〃 ⑨、〃⑨
10．〃 ⑩、〃 ⑩、〃 ⑩、〃⑩
11．〃 ⑪、〃 ⑪
12．〃 ⑫、復習①
13．〃 ⑬、〃 ②
14．〃 ⑭、〃 ③、リハーサル発表
15．まとめ、実技試験

事前・事後学習の内容

・譜読み(拍子・調号・音程・リズム・指番号の確認)→片手練習→両手練習→部分練習→強弱を練習→リズムや速度を変えての練習　などを繰り返すこと。

・ゆっくり丁寧な練習を心がける

評価の方法・基準

・実技試験（課題曲<弾き歌い>・自由曲<ピアノ曲>）(80%

・出席状況および授業態度、課題へ取り組む姿勢、小テスト（20%）

教科書

・『声楽<声楽教本>』（近畿大学九州短期大学通信教育部）・『音楽<ピアノ教本>』（近畿大学九州短期大学通信教育部）

・『保育実用書シリーズ　こどものうた 200』（チャイルド社）・『保育実用書シリーズ　続こどものうた 200』（チャイルド社）

・『ピアノ学習者のためのやさしい楽典』（ドレミ楽譜）・『ソナチネアルバム』(全音楽譜)、プリント配布

備考

授業科目	幼児と造形表現			担当者	三根 和浪		実務経験 ○
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	保育2年	時間数（単位数）	30（1）

授業の目的・内容

幼児がいろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもったり、感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しんだり、生活の中でイメージ豊かに様々な表現を楽しんだりする適切な指導・援助ができるよう、造形活動における表現及び鑑賞を通して美的感覚を高め創造力を豊かにすると共に、幼児の造形活動に関わる基礎的・基本的な知識・技能を修得する。

そのため、楽しみながら生活の中にある色、形、手触りなどに気付いたり感じたりすると共に、感じたことや考えたことなどを自由にかいたりつくったり、工夫して遊んだり飾ったりなどする。

到達目標

・造形活動の基礎的・基本的な知識・技能を説明したり発揮したりすることができる。
・生活の中にある色、形、手触りなどに気付いたり感じたり、造形活動を工夫したりすることができる。
・かいたりつくったりなどする造形活動を楽しむことができる。

授業計画

【前期】

1．オリエンテーション　鉛筆で表現 ……図画工作と幼児造形活動について
2．六月の造形①（食べ物を中心に） ……封筒、いろがみによる造形
3．　〃　②（動物を中心に） ……封筒、いろがみ、模造紙による造形
4．描画材料の特徴と用具の実際……割り箸ペン・クレヨン・パス・コンテ等　各種紙
5．造形について　形態（点・線・面）……特徴と性質を生かしての構成
6．色彩について　色の三要素・色の性質・特徴等……演習を通しての理解
7．七月の造形①（食べ物を中心に） ……いろがみと色画用紙による造形
8．　〃　②（動物を中心に） ……模造紙と色画用紙による造形
9．形態の構成　構成の原理 ……調和・類似・均衡・相称・律動・階調等の具体例
10．デザイン　平面構成 ……個人作品制作
11．絵画　立体の見方と描き方　画面構成 ……演習を通しての理解
12．水彩画　透明水彩・不透明水彩・淡彩 ……小作品を通して理解
13．立体で表現　基礎・基本 ……ペーパークラフト・飾るもの等
14．造形遊び ……遊びの工夫・材料を生かす・廃材の活用
15．鑑賞とまとめ ……幼児の作品評価とまとめ

事前・事後学習の内容

・毎時、授業終了時に本時のまとめの小リポートを作成するので、このリフレクションを踏まえ、次週までの復習と予習を通して授業時に明らかになった課題などについて克服したり準備したりする。

評価の方法・基準

・造形活動の表現及び鑑賞に関する基礎的･基本的な知識・技能（30%）、思考・判断（40%）、造形活動に取り組む関心・意欲・態度（30%）を総合的に評価する。
・社会状況の変化により内容や順番を変更することがあります。

教科書

資料プリントを配布します。

備考

・特になし。

授業科目	幼児と健康			担当者	樋野本　順子		実務経験
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	保育２年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

乳幼児の発達を学び、運動遊びの重要性について理解を高めていく。幼児期の運動遊びを実践的に体験し、保育者として運動遊びを指導していく上において必要な知識・技術を修得する。運動遊具の使用方法を理解し、活動のバリエーションを広げていく。

到達目標

・現代社会において幼児期の運動遊びの意義を説明できる。
・様々な運動遊びや補助ができる。
・幼児の運動遊びの「ねらい」を実現する効果的な指導方法を習得する。

授業計画

【前期】

１．オリエンテーション
２．運動遊びの意義
３．保育実践の場における運動遊び①
４．〃　②
５．〃　③
６．〃　④
７．〃　⑤
８．〃　⑥
９．〃　⑦
10．〃　⑧
11．〃　⑨
12．〃　⑩
13．幼児の運動と安全①
14．〃　②
15．〃　③、まとめ

体操・マット・縄跳び
手具・身近な用具を使って
運動用具を使っての指導計画作成と実践

事前・事後学習の内容

・授業は、指定した服装、身だしなみで受けること。
・乳幼児の発達について理解しておくこと。
・幼児を観察したり、実際に触れ合ったりすることを通して乳幼児の発達について理解を深めておくこと。
・実習での運動遊びを体験し、活動内容や指導法を整理しておくこと。

評価の方法・基準

・各運動遊びの実践と指導への取り組み（80%）、指導計画提出（20%）
※体育館を使用する場合があります。時間変更になる場合は事前に知らせます。

教科書

・プリント

備考

授業科目	幼児と言葉			担当者	樋野本　順子		実務経験
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	保育２年	時間数（単位数）	１５（１）

授業の目的・内容

幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「言葉」について理解し、乳幼児の言葉の発達を促す環境や豊かな言葉表現が身に付くための配慮事項を学修していく。絵本・紙芝居やその他の児童文化に触れ、創造する楽しさや喜びを自らも感じ、保育実践に繋げていけるよう指導技術を身に付ける。

到達目標

・言葉の意義と機能について説明できる。
・言葉の感覚を豊かにする実践についての知識を身に付ける。
・児童文化について基礎的な知識を身に付ける。

授業計画

【前期】

１．オリエンテーション
２．乳幼児期の言葉の発達
３．言葉を豊かにする保育①
４．　〃　②
５．　〃　③
６．児童文化と言葉の発達①
７．　〃　②
８．まとめ

事前・事後学習の内容

・自分自身への言葉、他者への言葉等、日々丁寧な言葉遣いを意識する。
・自分が持っている絵本だけでなく、図書館で様々な絵本に触れたり、実習施設での子どもの言葉を促す環境構成について観察したりして、整理しておく。

評価の方法・基準

・期末試験（50%）、絵本ノート提出（50%）

教科書

・『子どもと言葉　新訂第２版』（萌文書林）
・文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
・厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館）
・内閣府『幼保連携型認定こども園　教育・保育要領』

備考

授業科目	幼児と環境			担当者	樋野本　順子		実務経験
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	保育２年	時間数（単位数）	１５（1）

授業の目的・内容

幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」のねらい・内容について学習する。子どもの他領域との関わりについて理解する。

保育の実践を通して指導上の配慮事項についての知識・技術を理解する。

到達目標

・幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「環境」について理解する。
・乳幼児の生活を取り巻く環境（自然環境・社会環境等）にかかわる保育の意義を知り、保育者として身に付ける知識・技術を習得する。

授業計画

【前期】

１．オリエンテーション
２．保育の基本と内容　自然物を使った作品を考える
３．領域「環境」のねらいと内容　SDGs を考えた環境作りを考える
４．非常時を考えた環境と保育①
５．　〃　②
６．マップ作り①
７．マップ作り②
８．発表・まとめ

事前・事後学習の内容

・日々自分の周りの環境を意識する。（自然環境、社会環境、人、物）
・幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」及び教科書を熟読しておく。
・子どもを取り巻く環境についてインターネット等で調べ整理しておく。

評価の方法・基準

・試験（50%）、提出物・発表（50%）

教科書

・文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
・厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館）
・内閣府『幼保連携型認定こども園　教育・保育要領』

備考

授業科目	幼児体育			担当者	樋野本　順子		実務経験
履修方法	講義	期間	後期	学科・学年	保育２年	時間数（単位数）	１５（1）

授業の目的・内容

乳幼児の発達を学び、運動遊びの重要性について理解を高めていく。保育者として運動遊びを指導していく上において必要な知識・技術を修得する。運動遊具の使用方法を理解し、活動のバリエーションを広げていく。

到達目標

・現代社会において幼児期の運動遊びの意義を説明できる。
・幼児の運動遊びの「ねらい」を実現する効果的な指導方法を理解する。

授業計画

【後期】

１．オリエンテーション　これからの幼児体育		
２．幼児の運動遊びについて考える		
３．保育実践の場における運動遊び①		
４．　〃　②		体操・マット・縄跳び
５．　〃　③		手具・身近な用具を使って
６．　〃　④		運動用具を使って及び鬼遊びの指導、留意点
７．　〃　⑤		指導計画作成
８．まとめ		

事前・事後学習の内容

・乳幼児の発達について理解しておくこと。
・観察や実際に幼児と触れ合ったりすることを通して発達段階について理解を深めておく。
・実習で運動遊びを体験し、活動内容や指導法を整理しておく。

評価の方法・基準

・期末試験（70%）、提出物（30%）

教科書

・『幼児体育Ⅱ』（近畿大学九州短期大学）
・プリント

備考

授業科目	言語表現			担当者	樋野本　順子		実務経験
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	保育2年	時間数（単位数）	３０（1）

授業の目的・内容

乳幼児の発達に即した言語表現に関する知識や技術を習得する。

児童文化の重要性を認識し、子どもの遊びや保育環境との結びつきについて学習する。

言語表現活動（絵本、紙芝居、パネルシアター、ストーリーテリング等）の知識や技術を習得する。

到達目標

・保育における言語表現について、基礎的知識、技術を身に付ける。
・保育の中の言語表現活動の意義を理解する。
・絵本を題材に言語表現活動の教材作りに取り組み実践する。

授業計画

【前期】

１．豊かなことばを育む保育者の役割と環境構成
２．子ども（乳幼児）のことばの発達と歌、絵本・紙芝居 ①
３．〃 ②
４．〃 ③
５．〃 ④
６．〃 ⑤
７．言葉あそび教材づくり①
８．〃 ②
９．〃 ③
10．〃 ④
11．〃 ⑤
12．〃 ④
13．発表①
14．〃 ②
15．まとめ

事前・事後学習の内容

・様々な絵本に日頃から接しておく。
・教材作りに必要な廃材や材料を集めておく。
・発表する前に練習を充分におこなっておく。
・発表時は、指定した服装、身だしなみで受けること。

評価の方法・基準

・言語表現活動のための教材作成と実演と取り組み（50%）、指導計画提出（50%）

教科書

・文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館）、文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館）
・厚生労働省『保育所保育指針』（フレーベル館）、厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館）
・内閣府『幼保連携型認定こども園　教育・保育要領』
・プリント

備考

授業科目	障害児保育			担当者	川合　紀宗		実務経験
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	保育２年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

近年、保育所や幼稚園において、特別な支援を要する子どもが数多く在籍しており、全ての保育者に障害児保育に関する専門性が必要とされてきている。そこで本講では、多様化する保育ニーズに対応し得るインクルーシブ保育の実践者を目指して、障害児保育の理念や障害知識と具体的支援方法などについて、理解と認識を深めることを目的とする。

到達目標

・様々な障害の知識と支援方法について修得することができる。
・障害のある子どもの個別支援計画やインクルーシブ保育体制について理解することができる。
・障害のある子どもの保護者支援や関係機関との連携について説明することができる。

授業計画

【前期】

１．障害児保育とは（乳幼児期の発達課題と障害特性 ）
２．障害の発生と原因・発達障害 の理解と支援
３．自閉症スペクトラム障害　　〃
４．注意欠如・多動性障害（ADHD）　　〃
５．限局性学習障害（LD）　　〃
６．発達性協調運動障害（DCD）　　〃
７．知的障害児の理解と支援
８．視覚障害児　　〃
９．聴覚障害児　　〃
10．言語障害児　　〃
11．肢体不自由児　　〃
12．重症心身障害児　　〃
13．インクルーシブ保育支援体制
14．家庭との連携・障害受容過程（保護者支援）
15．個別の保育計画と評価・就学指導

事前・事後学習の内容

・次回の授業について、提示された教科書の内容を事前に読んで整理しておく。
・授業終了時に示す課題について復習する。

評価の方法・基準

・授業への参加・態度（30%）、課題・レポート（30%）、期末試験（40%）により総合的に評価する。

教科書

・『よくわかる障害児保育』（ミネルヴァ書房）

備考

授業科目	子育て支援			担当者	豊田　奈未		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育２年	時間数（単位数）	３０（1）

授業の目的・内容

保護者に対する相談、助言、情報提供による支援方法を理解する。

子育て支援の内容・方法・技術を理解する。

子どもや保護者の状況・状態の把握から、アセスメント、支援計画、支援、評価のプロセスを理解する。

到達目標

・保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。

・保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

授業計画

【後期】

保育士の行う子育て支援の特性

１．子どもの保育とともに行う保護者の支援

２．日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成

３．保護者や家庭の抱える支援ニーズへの気付きと多面的な理解

４．子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供

保育士の行う子育て支援の展開

５．子ども及び保護者の状況・状態の把握

６．支援の計画と環境の構成

７．支援の実践・記録・評価・カンファレンス

８．職員間の連携・協働

９．社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働

保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）

10．保育所等における支援

11．地域の子育て家庭に対する支援

12．障害のある子ども及びその家庭に対する支援

13．特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援

14．要保護児童等の家庭に対する支援

15．まとめ

事前・事後学習の内容

・授業内容をふまえ、授業のまとめとして課題レポートの提出をする。

評価の方法・基準

・レポート提出（85%）、授業などの取り組み（15%）など総合的に評価する。

教科書

・なし。授業中に適宜プリントを配布する

備考

授業科目	教育相談			担当者	河地　あすか		実務経験
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	保育２年	時間数（単位数）	３０（２）

授業の目的・内容

幼児、児童が自己理解を深め、好ましい人間関係を築きながら、集団の中で生活する力を育て、成長を支援する教育相談についての基本的な知識を学ぶ。特に、一人一人の発達状況や個々の特徴や課題を捉え支援をしていくために必要なカウンセリングの意義、理論や方法等に関する知識や技法を学び、身に付ける。また、構成的グループエンカウンターに注目し、体験を通して、問題を未然に予防するための実践方法を理解する。

到達目標

・教育相談の意義と理論を理解している。
・様々な問題を抱える幼児、児童、保護者の理解と具体的な対応について説明できる。
・カウンセリングの姿勢や技法、カウンセリングマインドについて説明できる。

授業計画

【前期】

１．教育相談とは
２．教育相談と心理学
３．子どもを理解する①
４．　〃　②（自閉症・発達障害）
５．保護者の支援①（養育困難・虐待の疑い）
６．　〃　②（精神疾患・障害をもつ子どもの保護者）
７．カウンセリングとカウンセリングマインド
８．相談にのるための基本姿勢・技法①
９．　〃　②
10．その他の技法
11．構成的グループエンカウンターとは
12．　〃　の実際
13．園内の教育相談体制と専門機関との連携
14．保育者のメンタルヘルス
15．まとめ

事前・事後学習の内容

・授業中、授業後にリアクションペーパーを記入し理解を深めること。
・保育施設が抱える問題や保護者を取り巻く現状について情報収集をしておくこと。

評価の方法・基準

・筆記試験（70%）・リアクションペーパーの提出（20%）・受講態度（10%）

教科書

・近畿大学九州短期大学指定テキスト
・プリント配布

備考

授業科目	保育実習Ⅰ（保育所）			担　当　者	河地　あすか		実務経験
履修方法	実習	期　　間	後期	学科・学年	保育２年	時　間　数 （単位数）	９０ （２）

授業の目的・内容

保育実習に参加する学生は、すでに開講されている保育実習Ⅰ事前事後指導（保育所）を必ず履修しておく必要がある。保育実習（保育所）では、保育現場で、実際に乳幼児と関わり、保育士の姿を観察したり補助的な役割を果たしたりすることで、乳幼児の豊かな成長をいかに援助すべきかを、実践を通して体得していくことを目的とする。

到達目標

・乳幼児との積極的な関わりを通して、乳幼児理解に努める。
・保育士の幼児に対する援助の在り方を学ぶ。
・実習日誌を毎日記録し提出する。

授業計画

≪実習（1 日目～4 日目）≫

・保育所の一日の流れの理解（乳児・1、2 歳児）　・保育士の職務内容の理解①
・各年齢における発達の理解①　・保育士の関わり、援助方法を具体的に学ぶ①
・部分実習指導案の立案と検討

≪実習（5 日目～8 日目）≫

・保育所の一日の流れの理解（1、2 歳児・3 歳以上児）　・保育士の職務内容の理解②
・各年齢における発達の理解②　・保育士の関わり、援助方法を具体的に学ぶ②
・保育技術の習得　・実習１週目の振り返り、反省、課題
・部分実習指導案の立案と検討　・部分実習指導案の実践
・各年齢における発達と関わり方の理解（前半の反省と課題・担当者からの指導助言より）
・保育士の関わり、援助方法を積極的に学ぶ（前半の反省と課題・担当者からの指導助言より）

≪実習(9 日目～12 日目)≫

・保育所の一日の流れの理解（3 歳以上児）　・保育士の職務内容の理解③
・乳幼児の理解と積極的な関わりと工夫、実践
・保育士の関わり、援助方法を積極的に学ぶ（前半～半ばの反省と課題・担当者からの指導助言より）
・部分実習指導案の実践
・保育士の保育・教育に対する思いや熱意の理解
・反省会・自己課題の明確化（実習全体の反省と課題）

事前・事後学習の内容

・実習先の教育方針や目的を理解して実習に臨むこと。
・保育所保育指針を読み、各年齢の発達の特徴を理解しておくこと。
・実習中、実習後の学びや反省等は具体的に書き出しておくこと。

評価の方法・基準

・実習施設による実習評価を基準とする（80%）　・実習日誌の内容、実習事後レポートの内容（20%）
・実習中に実習生としてふさわしくない行動や 2 日連続して欠席した場合は不可とする。

教科書

・『幼稚園・保育所・認定こども園への教育・保育実習の手引き』(渓水社)、『保育の基本用語』(わかば社)
・『知りたいときにすぐわかる　幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』(同文書院)
・『保育所保育指針』（フレーベル館）・『保育所保育指針解説（厚生労働省)』（フレーベル館）

備考

授業科目	保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所）			担当者	河地　あすか		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育２年	時間数（単位数）	３０（1）

授業の目的・内容

保育実習の事前事後指導を行う授業である。保育実習に参加する学生は必ず受講をしなければならない。

事前指導では、保育実習が円滑に実践できるように、保育実習の意義や概要、実習の心構えや準備、実習に臨む基本姿勢、日誌・指導案の書き方等を学ぶ。また、ねらいや目標をもって、実習に取り組むことができるようにする。事後指導では、実習の学習内容を振り返り自己課題の発見に努める。

到達目標

・実習の意義と目的を理解している。
・実習生としてふさわしい姿勢や態度を身に付ける。
・実習日誌、指導案の書き方が理解できる。

授業計画

【後期】

１．保育実習の概要
２．保育実習の意義と目的
３．乳幼児の発達理解と実習生の動き①
４．　〃　②
５．　〃　③
６．乳幼児の発達理解と実習生の動き④
７．実習日誌の書き方①
８．　〃　②
９．部分実習の内容と方法（指導案立案）①
10．　〃　②
11．学内オリエンテーション
12．実習の振り返り（自己評価・個人面談・報告会準備）①
13．　〃　②
14．　〃　③
15．実習報告会・自己課題の明確化

事前・事後学習の内容

・実習で必要な姿勢や態度は日常生活から取り組むこと。授業で学んだことを実践する。
・ボランティア活動に積極的に参加し子どもや保護者と関わる機会をつくる。
・日頃から親子に関心をもって、保護者や子どもの様子を観察する。

評価の方法・基準

・出席状況、受講態度（実習報告を含む）（80%）、提出物（20%）
※出席状況（欠席３回の場合は実習延期の場合有）

教科書

・『保育所保育指針解説本（厚生労働省編）』フレーベル館
・プリント配布

備考

授業科目	保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）			担当者	樋野本　順子		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育２年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

この科目は初めに保育実習（施設）の意義・目的・内容について理解していく。実習前にするべきこと、児童福祉施設の具体的役割の理解、実習記録の書き方、指導計画案の作成、実習後にするべきことを実例に基づいて行っていく。

到達目標

・保育実習（施設）に臨む心構えをつくる。
・実習日誌の書き方・指導案の知識及び技術を身に付ける。
・実習に向けて課題及び目標を明確にする。

授業計画

【後期】

１．施設実習に関する基礎理解と諸注意
２．施設の役割と機能①
３．　〃　②
４．実習記録の書き方①
５．　〃　②
６．指導案作成　①
７．　〃　②
８．面　談①
９．　〃　②
10．模擬保育　①
11．　〃　②
12．　〃　③
13．　〃　④
14．　〃　⑤
15．まとめ

事前・事後学習の内容

・教材や部分指導の準備を行う。
・児童福祉施設の役割、種類、内容についての事前学習。
・実習施設における実習目標、課題、学習計画に沿って、実習に向けた準備。

評価の方法・基準

・授業への積極的参加（50%）、模擬保育（40%）、指導案・レポート（10%）

教科書

・『新訂　知りたいときにすぐわかる　幼稚園・保育所・児童福祉施設等　実習ガイド第二版』（同文書院）

備考

授業科目	教育実習Ⅰ			担当者	河地 あすか		実務経験
履修方法	実習	期間	前期	学科・学年	保育2年	時間数（単位数）	90（2）

授業の目的・内容

教育実習Ⅰに参加する学生は、1年次に開講されている教育実習事前事後指導Ⅰを必ず履修しておく必要がある。教育実習Ⅰでは、子どもと実際に関わりながら子どもの豊かさや子どものもつ計り知れない力に触れる機会をもち、幼稚園教諭の姿を観察したり補助的な役割を果たしたりすることで、保育・教育の専門的な知識や技術、やりがいを、実践を通して体得していくことを目的とする。

到達目標

・幼児との積極的な関わりを通して、幼児理解に努める。
・幼稚園教諭の幼児に対する援助の在り方を学ぶ。
・実習日誌を毎日記録し提出する。

授業計画

≪教育実習（1日目～3日目）≫

・幼稚園の一日の流れの理解
・幼稚園教諭の職務内容の理解
・各年齢における幼児の発達の理解①
・幼稚園教諭の指導、援助方法を具体的に学ぶ①
・部分実習指導案の立案と検討

≪教育実習（4日目～6日目）≫

・各年齢における幼児の発達の理解②
・幼稚園教諭の指導、援助方法を具体的に学ぶ②
・保育技術の習得
・実習1週目の振り返り、反省、課題
・部分実習指導案の立案と検討
・部分実習指導案の実践
・各年齢における幼児の発達と関わり方の理解（前半の反省と課題・担当者からの指導助言より）
・幼稚園教諭の指導、援助方法を積極的に学ぶ（前半の反省と課題・担当者からの指導助言より）

≪教育実習(7日目～10日目)≫

・幼児の理解と積極的な関わりと工夫
・幼稚園教諭の指導、援助方法を積極的に学ぶ（前半～半ばの反省と課題・担当者からの指導助言より）
・部分実習指導案の実践
・幼稚園教諭の保育・教育に対する思いや熱意の理解
・反省会・自己課題の明確化（実習全体の反省と課題）

事前・事後学習の内容

・実習先の教育方針や目的を理解して実習に臨むこと。
・教材研究をして部分実習指導案を立案しておくこと。
・実習中、実習後の学びや反省等は具体的に書き出しておくこと。

評価の方法・基準

・実習施設による実習評価を基準とする（80%）
・実習日誌の内容、実習事後レポートの内容（20%）
・実習中に実習生としてふさわしくない行動や2日連続して欠席した場合は不可とする。

教科書

・『幼稚園・保育所・認定こども園への教育・保育実習の手引き』（渓水社）
・『幼稚園教育要領』（フレーベル館）・『幼稚園教育要領解説（文部科学省）』（フレーベル館）

備考

授業科目	音楽(応用)			担当者	香山 泉		実務経験
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	保育２年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

保育・幼児教育現場で必要とされる弾き歌い実践力、即興能力(子どもの状況に合わせ奏する対応力)、表現力の完成を目指す。毎週レッスンと小テストを行い、個々に合った練習のやり方で演奏技術の向上を目的とする。

・季節や生活に合わせた弾き歌い曲を練習し習得する
・ソナチネ(1 曲以上)を丁寧に譜読みし弾き込み発表する

到達目標

保育者として、現場で必要なピアノ技術やコードを使って奏する応用力、弾き歌い技術の習得・完成を目標とする。

・音程や音階を理解し、状況に合わせて歌唱やピアノで子どもたちを導くことができる
・自由に伴奏を付け歌い示すことができる
・ソナチネを丁寧に譜読みし表現力豊かに演奏することができる

授業計画

【前期】

1．レッスン（バイエル・ソナチネ・弾き歌い曲）①、小テスト①、歌唱①、コード①
2．〃 ②、〃 ②、〃②、〃 ②
3．〃 ③、〃 ③、〃③、〃 ③
4．〃 ④、〃 ④、〃④、〃 ④
5．〃 ⑤、〃 ⑤、〃⑤、〃 ⑤
6．〃 ⑥、〃 ⑥、〃⑥、〃 ⑥
7．〃 ⑦、〃 ⑦、〃⑦、〃 ⑦
8．〃 ⑧、〃 ⑧、〃⑧、〃 ⑧
9．〃 ⑨、〃 ⑨、〃⑨、〃 ⑨
10．〃 ⑩、〃 ⑩、〃⑩、〃 ⑩
11．〃 ⑪、復習①
12．〃 ⑫、〃②
13．〃 ⑬、〃③
14．〃 ⑭、〃④、リハーサル発表
15．まとめ、実技試験

事前・事後学習の内容

・譜読み(拍子・調号・音程・リズム・指番号の確認)→片手練習→両手練習→部分練習→強弱を練習→リズムや速度を変えての練習などを繰り返すこと
・ゆっくり丁寧な練習を心がける

評価の方法・基準

・実技試験（課題曲<弾き歌い>・自由曲<ピアノ曲>）(80%)
・出席状況および授業態度、課題へ取り組む姿勢、小テスト（20%）

教科書

・『声楽<声楽教本>』(近畿大学九州短期大学通信教育部)、『音楽<ピアノ教本>』(近畿大学九州短期大学通信教育部)
・『保育実用書シリーズ　こどものうた 200』(チャイルド社)、『保育実用書シリーズ　続こどものうた 200』(チャイルド社)
・『ソナチネアルバム』(全音楽譜)、『ピアノ学習者のためのやさしい楽典』(ドレミ楽譜)、プリント配布

備考

授業科目	障害の理解Ⅰ			担当者	宮田　新一		実務経験
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	保育２年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

保育士として求められる「障害」に関する知識・技術を理解することを目的とする。「障害」の理解に不可欠な「社会モデル」の視点をもとに、「障害」に関する特性や制度、支援について学ぶ。その中で、乳幼児期から成人期までのライフサイクルを捉え、将来を見据えた「切れ目のない支援」を行うための知識・技術の習得を目指す。

到達目標

・社会モデルの視点に基づき、「障害」による「困りごと」を環境要因から分析し、具体的な環境調整（合理的配慮）を提案することができる。
・将来を見据えた「支援計画」の重要性を説明することができる。

授業計画

【前期】

１．「障害の理解Ⅰ」の概要　-障害とは何か-
２．障害のある人への福祉（障害福祉）の変遷
３．「障害福祉」の理念　－ノーマライゼーションから社会モデルまで－
４．身体障害の理解と支援①　－視覚障害、聴覚障害－
５．身体障害の理解と支援②　－肢体不自由、内部障害、その他－
６．知的障害の理解と支援
７．精神障害・発達障害の理解と支援
８．障害者福祉制度の動向と関連領域　中間テスト
９．障害のある子の家族への支援
10．障害のある人を地域で支える－支援ネットワーク構築と他職種連携－
11．障害者福祉サービスの実際
12．個別支援計画　①アセスメント－当事者へのインタビュー－
13．個別支援計画　②プランニングーストレングスモデルの活用－
14．障害のある人への差別解消に向けて　－合理的配慮と虐待防止－
15．まとめ　期末テスト

事前・事後学習の内容

・講義終了後、学習確認シートを実施する。①講義内容のポイント整理、②講義内容に対する各自の気づき・感想を、整理・復習する。

評価の方法・基準

・期末テスト（15 回目）：50%、中間テスト（8 回目）：30%
受講態度（各回学習確認シートを含む）：20%
※「個別支援計画」は当事者に参加いただく予定となっており、日程調整の可能性がある。その状況によりシラバスの順番を変更する場合がある。

教科書

・『障害福祉と関連領域』（河口社会福祉士事務所）

備考

授業科目	障害の理解Ⅱ			担当者	太田　民恵		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育２年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

これまで学習した「障害児保育」「障害の理解」等を基礎として、保育の場で様々な障がいを持つ子ども、また障がいの診断に至ってはいないが「気になる子ども」へ対応する力量と保護者支援する力量を付けていくことを目的とします。様々な障がいの特性を疑似体験などを通してより深く理解し、具体的な支援の在り方を学んでいきます。

到達目標

・様々な障がいの特性を疑似体験などを通しより深く理解することができる。
・障害を持つ子どものみでなく、「気になる子ども」の観察やアセスメントすることができる。
・保育の場で具体的な支援の方法を知り、実践できる力を身につけることができる。

授業計画

【後期】

１．「障害の理解Ⅱ」の概要の理解　障がいの認識（ICF の理念）について
２．発達障害（自閉症スペクトラム）の特性について
３．自閉症スペクトラムの疑似体験　（感覚の問題）
４．自閉症スペクトラムの疑似体験　（社会性・コミュニケーション）
５．自閉症スペクトラムへの具体的支援について
６．発達障害（注意欠陥多動性障害・学習障害）についての概要と支援について
７．肢体不自由児について　疑似体験と支援について
８．医療的ケア児について
９．知的障がいの理解（保育園での実生活の録画を通し）と支援
10．インクルーシブ保育の視点から「困り感」や「生きづらさ」を抱えている子どもたちへの理解
11．保護者の支援について
12．保育園で気になる子どもへの具体的支援（0.1 歳児）
13．保育園で気になる子どもへの具体的支援（2.3 歳児）
14．保育園で気になる子どもへの具体的支援（4.5 歳児）
15．まとめ(学習の振り返りと今後に向けて)

事前・事後学習の内容

・講義初めに前回内容の確認シートにより、講義内容のポイントの整理をし、自己の気づきや感想を整理しておくこと。

評価の方法・基準

・授業への参加・態度（30%）課題・レポート（40%）期末レポート（30%）

教科書

・あたし研究　自閉症スペクトラム　小道モコの場合　クリエイツかもがわ

備考

授業科目	教育実習事前事後指導Ⅱ			担当者	河地　あすか		実務経験
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	保育２年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

教育実習での学びを受けて、幼稚園教諭免許取得に必修である教育実習Ⅱの事前事後指導である。教育実習Ⅱに参加する学生は必ず受講しなければならない。事前指導では、教育実習を振り返り教育実習Ⅱに向けて明確な課題をもち意欲的に実習に取り組めるよう指導する。事後指導では、教育実習Ⅱを振り返り、集団討議、合同報告会等を実施し、幼稚園教諭としての指導援助の在り方、環境の構成、家庭や地域との連携、資質と能力等、専門的な知識・技術の習熟を目指す。

到達目標

・教育実習の課題を明確化できる。
・教育実習Ⅱの意義と目的を理解できている。
・教育実習Ⅱの学びや反省、課題を明確化し、報告をすることができる。

授業計画

【前期】

１．教育実習の振り返りと反省
２．教育実習の課題の明確化と教育実習Ⅱの目標設定
３．教育実習Ⅱの意義と目的
４．幼稚園教諭の職務内容を理解する
５．幼稚園教諭にふさわしい姿勢や態度を理解する
６．実習日誌の書き方①
７．　〃　②
８．部分実習の内容と方法、指導案立案①
９．　〃　②
10．学内オリエンテーション
11．実習を振り返る①（自己評価と個人面談）
12．　〃　②（自己課題の明確化）
13．教育実習・教育実習Ⅱの総括・まとめ
14．実習報告会①
15．　〃　②

事前・事後学習の内容

・教材研究や指導案作成に積極的に取り組むこと
・教育実習での自己課題を明確化し達成のために教育実習Ⅱにどのように取り組むか意識を高めておく
・乳幼児関連のニュースや新聞記事に興味関心をもち保育・教育について理解を深めておくこと

評価の方法・基準

・出席状況、受講態度（実習報告会を含む）（80%）、提出物（20%）
※出席状況（欠席３回の場合は実習延期の場合有）

教科書

・ プリント配布
・『幼稚園教育要領』（フレーベル館）・『幼稚園教育要領解説（文部科学省）』（フレーベル館）

備考

授業科目	保育特論Ⅰ			担当者	河地　あすか		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育２年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

学年を越えての交流や学校行事、クラス行事に主体的に取り組むことを通して、協同性を育む。また、様々な分野の専門家による講義、演習及び実技を通して、教育や福祉に対する視野を広げ、興味関心を高めると共に、これからの保育者として必要な資質、能力を培っていくことを目指す。

到達目標

・協同性について理解を深め、その姿勢や態度を身に付ける。
・講義、演習及び実技を通して、保育者として求められる資質・能力を培っていく。
・多様な子ども達について理解し、適切で具体的な支援とは何かを考え実践できるようになる。

授業計画

【後期】

１．学校・クラス行事企画実践①
２．　〃　②
３．　〃　③
４．　〃　④
５．　〃　⑤
６．　〃　⑥
７．教育・福祉（実習・視覚障害・聴覚障害）に関する講義や演習①
８．　〃　②
９．　〃　③
10．　〃　④
11．　〃　⑤
12．日本文化に親しむ（茶道、所作等）
13．活動内容の振り返りを通して自己課題の追求 ①
14．　〃　②
15．まとめ

事前・事後学習の内容

・準備物等は早めに準備し、授業、発表に備える。
・配布されるリフレクションシートを記入し提出する。

評価の方法・基準

・受講態度（提出期限内レポートを含む）・出席状況（70%）、発表姿勢・内容（30%）
※状況によりシラバスの順番を変更する場合がある。演習・実技内容により服装の指定あり。

教科書

・適宜、プリント配布

備考

授業科目	社会貢献活動Ⅱ			担　当　者	こども保育学科　教員		実務経験
履修方法	実習	期　　間	通年	学科・学年	保育２年	時　間　数 （単位数）	９０ （2）

授業の目的・内容

養成校の近隣地域の企業・施設での貢献活動を通して、地域の人々とコミュニケーションをはかり役割や支援について考え、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、今後の学習や地域・子育て家庭・子どもの支援に役立てる。

到達目標

・リーダーシップとフォロワーシップを実践的に学び、チームをマネジメントする力が持てる。
・対象者（高齢者・乳幼児・乳幼児の保護者）の安心した生活を支えるための実践力を身につける。
・地域に住む対象者（高齢者・乳幼児・乳幼児の保護者）を支える制度や支援体制について学ぶ。

授業計画

【前期】
１．目的理解
２．導入講座
３．グループでの活動検討
４．貢献活動①
５．　〃　②
６．　〃　③
７．　〃　④
８．　〃　⑤
９．中間振り返り
10．貢献活動⑥
11．　〃　⑦
12．　〃　⑧
13．　〃　⑨
14．　〃　⑩
15．振り返り

【後期】
16．貢献活動⑪
17．　〃　⑫
18．　〃　⑬
19．　〃　⑭
20．　〃　⑮
21．中間振り返り
22．貢献活動⑯
23．　〃　⑰
24．　〃　⑱
25．　〃　⑲
26．　〃　⑳
27．活動報告会準備①
28．　〃　②
29．　〃　③
30．活動報告会

事前・事後学習の内容

・活動前に必ず活動内容、役割分担を理解しておくこと

評価の方法・基準

・出席状況（60%）　取り組み姿勢（40%）

教科書

・なし

備考

授業科目	**就職実務Ⅰ**			担当者	河地　あすか		実務経験
履修方法	講義	期間	通年	学科・学年	保育２年	時間数（単位数）	３０（2）

授業の目的・内容

保育者は、乳幼児期の子ども達にとって重要な環境の一つであり多大な影響力をもっている。保育者は、日々子ども達の生活に感動をもたらし、育ちを支えていくという夢のある仕事であると同時に、責任の重い仕事であることを自覚する。また、保育者の専門性（知識・技術）を備えるだけではなく、社会人としての常識や優れた人間性を備えることができるよう、自分のありたい保育者像を探し求めつつ、自分自身の生活を見直しながら、自分自身の生活を豊かにできるよう生活の基礎を身に付ける。

到達目標

・社会人としての常識を理解する。
・日々の生活に感謝し、充実した生活を送ることができる。
・人の為に何ができるかを考え、自分にできることを見つけ取り組むことができる。

授業計画

【通年】

１．オリエンテーション
２．クラス運営について（委員・係決め）
３．個人面談①
４．　〃　　②
５．保育・幼稚園ナビ①
６．　〃　　②
７．学園祭準備①
８．　〃　②
９．　〃　③
10．保育・教育実習準備①
12．　〃　　②
13．就職活動にむけて①
14．　〃　　②
15．　〃　　③

事前・事後学習の内容

・日々の生活態度（言葉・行動）を意識する。
・クラスの環境作り・温かい雰囲気を心掛ける。
・なりたい保育者像を想像し、実現のためにできることを見つける。

評価の方法・基準

・授業への積極的な取り組み(70%)、提出物(30%)

教科書

・配布資料

備考

授業科目	介護実務者研修Ⅰ （選択）			担　当　者	河地　あすか		実務経験
履修方法	講義・演習	期　　間	後期	学科・学年	保育２年	時　間　数 （単位数）	２３０ （7）

授業の目的・内容

介護職員に求められる知識・技術を習得し、介護福祉士国家試験の受験資格を得るための介護実務者研修の修了資格の取得を目指す。

介護領域のうち、介護領域、医療的ケア領域を学ぶ。

介護過程Ⅲは5日間のスクーリングによる授業を行う。

到達目標

・質の高い介護サービスを安定的に提供していくことを目標に、基本的な介護提供能力の修得を目的とする。

授業計画（授業科目）

【後期】

１～５．介護の基本Ⅰ

６～15．介護の基本Ⅱ

16～25．コミュニケーション技術

26～35．生活支援技術Ⅰ

36～50．生活支援技術Ⅱ

51～60．介護過程Ⅰ

61～73．介護過程Ⅱ

74～97．介護過程Ⅲ（スクーリング）

98～115．医療的ケア

事前・事後学習の内容

・各教科目の教科書をよく読み、内容をよく理解する。

・各教科目の演習問題を解き内容を理解し、間違った箇所は教科書を見直し何度も演習問題に取り組む。

・スクーリングで学んだ手技を何度も練習しマスターする。

評価の方法・基準

・科目ごとの演習問題を解き、科目認定試験に合格することによって、科目修了になる。

・各科目の試験（50%）、スクーリングによる実技試験と授業への取り組み（50%）による総合評価。

・介護の基本Ⅰ～介護過程Ⅱまでを修了していなければ、介護過程Ⅲのスクーリングを受講することはできない。

・医療的ケアのスクーリングは、口腔内の喀痰吸引、鼻腔内の喀痰吸引、気管カニューレ内部の喀痰吸引、胃ろう又は腸ろうによる経管栄養、経鼻経管栄養の5類型あり、それぞれの類型で5回の実技試験に合格しなければならない。

・授業6の医療的ケアを修了していなければ、医療的ケア演習を受講することはできない。

・スクーリングの遅刻は認めない。医療的ケアのスクーリングは1日目を受講後、2日目を受講しなければならない。

・スクーリングの遅刻は認めない。介護過程Ⅲのスクーリングは1日目から5日目まで順番に取得しなければならない。科目認定試験は各自行いすべての教科目に合格しなければならない。

教科書

・『介護職員等実務者研修（450時間研修）テキスト　第1巻～第5巻』（中央法規）

備考

３年

カリキュラム・マップ（こども保育学科）

2024年度入学生用

＜ディプロマ・ポリシー（DP）＞

1）保育・福祉における様々な課題をとらえ、現場で支援・指導するための**専門的知識及び技能(DP1)**を身に付ける。
2）保護者、地域、多職種と円滑に**コミュニケーションをはかる能力(DP2)**を兼ね備え、保育・福祉の現場で実践できる能力を身に付ける。
3）保育・福祉に携わる社会人として相応しい**倫理観、使命感・責任感、やさしさと思いやり(DP3)**を持って行動できる。

区分	履修科目名	履修学年	履修時間	単位	DP1	DP2	DP3
基礎分野	日本国憲法	1	30	2	◎		○
	生涯スポーツ	1	45	1	◎	○	
	健康科学	1	15	1	◎	○	
	情報処理	1	60	2	◎	○	
	英会話	1	60	2	◎	○	
専門分野	保育原理	2	30	2	◎		
	教育原理	1	30	2	◎		
	子ども家庭福祉	2	30	2		◎	
	社会福祉	1	30	2	◎		
	子ども家庭支援論	2	30	2		◎	
	社会的養護Ⅰ	1	30	2	◎		
	社会的養護Ⅱ	2	30	1	◎		
	教職概論	1	30	2	◎		
	教育課程総論	1	30	2	◎		
	教育方法論	1	30	2	◎		
	保育の心理学	3	30	2	◎		
	子ども家庭支援の心理学	2	30	2		◎	
	教育心理学	1	30	1	◎	○	
	幼児の心理学	1	15	1	◎	○	
	子どもの保健	2	30	2	◎	○	
	子どもの食と栄養	2	60	2	◎	○	
	保育内容総論	2	30	1	◎	○	
	健康（指導法）	1	30	1	◎	○	
	人間関係（指導法）	3	30	1	◎	○	
	環境（指導法）	1	30	1	◎	○	
	言葉（指導法）	1	30	1	◎	○	
	造形表現（指導法）	1	60	2	◎	○	
	音楽表現（指導法）	1	30	1	◎	○	
	劇遊び（指導法）	1	30	1	◎	○	
	幼児と音楽表現	1	30	1	◎	○	
	音楽表現技術	2	30	1	◎	○	
	幼児と造形表現	2	30	1	◎	○	
	幼児と健康	2	30	1	◎	○	
	幼児と言葉	2	15	1	◎	○	
	幼児と人間関係	3	15	1	◎	○	
	幼児と環境	2	15	1	◎	○	
	幼児体育	2	15	1	◎	○	
	言語表現	2	30	1	◎	○	
	乳児保育Ⅰ	3	30	2	◎	○	
	乳児保育Ⅱ	3	30	1	◎	○	

区分	履修科目名	履修学年	履修時間	単位	DP1	DP2	DP3
専門分野	子どもの健康と安全	3	30	1	◎	○	
	障害児保育	2	30	1	◎	○	
	幼児への特別な支援	3	15	1	◎	○	
	子育て支援Ⅰ	2	30	1	◎	○	
	教育相談	2	30	2	◎	○	
	保育・教職実践演習	3	60	2	◎	○	○
	保育実習Ⅰ（保育所）	2	90	2	◎	○	
	保育実習Ⅰ（施設）	3	90	2	◎	○	
	保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所）	2	30	1	◎	○	
	保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）	2	30	1	◎	○	
	保育実習Ⅱ	3	90	2	◎	○	
	保育実習事前事後指導Ⅱ	3	30	1	◎	○	
	教育実習Ⅰ	2	90	2	◎	○	
	教育実習事前事後指導Ⅰ	1	30	1	◎	○	
	教育実習Ⅱ	3	90	2	◎	○	
本学開講専門分野	音楽（基礎）	1	30	1	◎	○	
	音楽（応用）	2	30	1	◎	○	
	音楽（実践）	3	60	2	◎	○	
	歌唱	1	30	1	◎	○	
	障害の理解Ⅰ	2	30	1	◎	○	
	障害の理解Ⅱ	2	30	1	◎	○	
	教育実習事前事後指導Ⅱ	2	30	1	◎	○	
	事前保育教育観察実習（幼稚園・保育所）	1	30	1	◎	○	
	指導案実践演習Ⅰ	1	30	1	◎	○	
	指導案実践演習Ⅱ	2	30	1	◎	○	
	指導案実践演習Ⅲ	3	30	1	◎	○	
	子育て支援Ⅱ	2	30	1		◎	
	子育て支援Ⅲ	3	30	1		◎	
	保育特論Ⅰ	2	30	1			○
	保育特論Ⅱ	3	60	2			○
その他	基礎マナー講座	1	30	1		○	◎
	社会貢献活動Ⅰ	1	90	2		○	◎
	社会貢献活動Ⅱ	2	90	2		○	◎
	社会貢献活動Ⅲ	3	90	2		○	◎
	就職実務Ⅰ	1	30	2			◎
	就職実務Ⅱ	2	30	2			◎
	就職実務Ⅲ	3	30	2			◎
選択必修	ＩＣＴスキル講座	3	30	1	◎	○	
	おやつと食育	3	30	1	◎	○	
	環境と自然	3	30	1	◎	○	
	チャイルドスポーツ	3	30	1	◎	○	
	チャイルドミュージック	3	30	1	◎	○	
	チャイルドアート	3	30	1	◎	○	
選択	介護実務者研修Ⅰ	2	230	7	◎		○
	介護実務者研修Ⅱ	3	230	7	◎		○
				◎の科目数	71	5	7
				○の科目数	0	63	5

◎：科目の到達目標が該当のDPに直結する科目（各科目１つのみ◎をつける）
○：科目の到達目標が該当のDPに関連する科目（各科目複数の○をつけてもよい）

授業科目	保育の心理学			担当者	楊 依梵		実務経験
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	保育３年	時間数（単位数）	３０（２）

授業の目的・内容

人は、受精した瞬間から死に至るまで様々な変化を遂げて発達していく。一生を見通して発達を学ぶことにより、一生の土台と言われる乳幼児期の意義を理解していきたい。同時に、青年期を生きる今の自分についても考えるきっかけを与えたい。この授業では乳幼児期のみならず、それ以降の各発達段階の特徴や課題について学習する。

到達目標

・教育心理学・発達心理学の研究成果に基づいて、生涯にわたる人間の育ちや発達について理解した上で、説明することができる。
・現代社会が抱える、乳幼児・児童・青年以降の発達に関わる問題について説明することができる。

授業計画

【前期】

１．発達とは何なのか
２．生命の芽生えから誕生まで
３．認識の発達
４．コミュニケーションと人間関係の発達
５．言語と遊びの発達
６．人間関係の中で生まれる自己
７．仲間の中での育ち
８．学校での学び
９．青年期の発達
10. 青年期から成人期の発達
11. 成人期以降の発達
12. 人生の振り返り
13. 発達におけるつまずき①
14. 〃 ②
15. まとめ

事前・事後学習の内容

・前回の講義資料を再度読んだ上で、講義にのぞむ。
・授業終了時に示す課題についてレポートを作成する。

評価の方法・基準

・学期末試験（60%）、レポート課題（30%）、提出物（10%）

教科書

・『新時代の保育双書　保育に生かす教育心理学』（株式会社みらい）
・『保育の心理学』（近畿大学九州短期大学）
・『実践に活かす保育の心理学』（ミネルヴァ書房）
・講義資料を配布する。

備考

授業科目	人間関係（指導法）			担当者	近畿大学九州短期大学 授業科目担当者		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育３年	時間数 （単位数）	３０ （1）

授業の目的・内容

子どもの人間関係形成をめぐる諸課題について理解を深め、領域「人間関係」の内容および意義について学修する。また、子どもが単に集団にうまく適応することのみを問題にするのではなく、「他者理解」を通して人の豊かなかかわりを経験することの意義を学ぶ。人との豊かなかかわりを育てる保育者としての役割について学習する。

到達目標

・学生が領域「人間関係」に関する保育内容および指導に関する知識・技術を習得する
・学生が子どもの発達を領域「人間関係」の観点で捉え、子どもの理解を深める

授業計画

近畿大学九州短期大学での 2 日間のスクーリングで授業が行われます。
授業日程　10 月 24(土)、25 日(日)　9：00～12：45、13：45～17：30
※事前オリエンテーション有
※2 日間の日程すべて受講が必須。この期間に受講出来なかった場合は別な日程で受講すること。

スクーリングとは、一定期間大学に通学し授業を受けることである。学問の理論と実際の研究及び人格の陶冶を図ることを趣旨とする大学教育の実現を目的としている。単位を修得することのみにとらわれることなく、講義時間以外は図書館で学習することが大切である。

事前・事後学習の内容

・幼稚園教育要領・保育所保育指針を熟読しておくこと
・授業後、指示された課題をまとめて、提出すること
※指定された服装、身だしなみで参加すること

評価の方法・基準

・事前オリエンテーション・2 日間のスクーリングを受講後課題（100%）

教科書

・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領　幼稚園教育要領　保育所保育指針』（フレーベル館）

備考

授業科目	幼児と人間関係			担当者	河地　あすか		実務経験
履修方法	講義	期間	後期	学科・学年	保育３年	時間数（単位数）	１５（1）

授業の目的・内容

子ども達を取り巻く環境の変化により、子ども達の人間関係を構築する力・コミュニケーション能力は低下傾向にある。これからの時代を担い生きていく子ども達には、そのような能力をはじめ、他者を認め協働する力が求められる。この力は領域「人間関係」と深く関わる。幼稚園教諭・保育士を目指すにあたり、子ども達が他者と協働し今後の社会を幸せに生きていくことができるよう、領域「人間関係」の具体的な知識や技術の習得を目指す。

到達目標

・幼児を取り巻く人間関係の現状を把握する。
・領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。
・人とかかわる力の重要性を学び、支援が必要なポイントを理解する。

授業計画

【前期】

１．領域「人間関係」の社会的背景
２．子どもの発達と人間関係
３．領域「人間関係」のねらいと内容
４．保育者のかかわり方と集団づくり・協同的な学び
５．保育における子ども同士の関係
６．子どもとのかかわりを通した幼児理解と評価
７．特別な支援を必要とする子どもの援助
８．まとめ

事前・事後学習の内容

・次回授業までに、授業範囲のテキストを読んでおくこと。
・実習で学んだ保育者と子ども・子ども同士の関係性について振り返っておくこと。

評価の方法・基準

・授業態度、出欠状況（30%）、筆記試験（70%）

教科書

・『幼児と人間関係－幼稚園教諭・保育士をめざす』（同文書院）

備考

授業科目	乳児保育Ⅰ			担当者	樋野本　順子		実務経験
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	保育3年	時間数（単位数）	３０（2）

授業の目的・内容

乳児保育（0・1・2歳児保育）の意義や歴史的変遷及び社会的背景から、保育所等の果たす役割を学び、3歳未満児の発育発達の過程や特性を踏まえた保育内容、職員間、保護者、地域との連携や協働を理解する。

到達目標

・乳児保育の意義・目的及び役割について理解する。
・乳児保育の現状と課題について理解する。
・3歳児未満児の発育・発達を踏まえた保育についての知識・技術を習得する。

授業計画

【前期】

1．オリエンテーション・レポートについて
　保育所における０歳児・１歳児・２歳児クラスそれぞれの「生活」と保育者の関わりについて。
2．　〃　②
3．　〃　③
4．認定こども園とは何かその機能や導入の社会的背景、４つのタイプ課題について理解する。
5．地域型保育事業とは何か、事業の概要、4つの類型の内容について理解し、今後の課題について考える。
6．「保育所保育指針〈２０１８年度版〉に示された０・１・２歳児の保育に関する事項について理解する。
7．養育者との関係と子どもの心の育ちについて。
8．ことばの発達過程と保育者の関わりについて。
9．複数担任制によるクラス運営の実際や保育者同士の連携について。
10．かみつきなどのトラブルについて考える
11．「虐待」とはどのような行為か、虐待が疑われた場合の保育者の対応について。
12．安全管理について
13．保護者との連携について考える
14．関係機関との連携・協働・まとめ
15．まとめ

事前・事後学習の内容

・実習での乳幼児の世話を通して、困ったことや分からなかったことを整理して発表できるようにしておく。
・授業後の課題を次の授業までに提出する。
・レポートの設題を的確に理解し、把握しておく。参考文献の学習を深め、キーワードを整理しつつ論を展開していく。参考文献や引用文献を明らかにする。自分の考えをまとめ、自分のことばでレポートを書く。

評価の方法・基準

・科目終末試験　６０点以上で合格、レポート　６０点以上で合格
・レポートは期日内に提出をすること及び授業内の毎回の科目週末試験に向けてのレポート提出が、科目週末試験受験要件となる。

教科書

・志村聡子、吉長真子『はじめて学ぶ乳児保育』（同文書院）

備考

授業科目	乳児保育Ⅱ			担当者	樋野本　順子		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育３年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

講義やDVDで乳児保育についての基礎知識を学ぶ。

乳児期の子どもへの対応や保護者支援としての配布物やお便りの作成を通して保育者としての基本施設を身に付けていく。

乳児の人形を使用し、着替えや日々のかかわり方等の実践を行う。

教材、指導案を準備し模擬保育を行う。

到達目標

・乳児保育の意義・目的及び役割について理解する。
・乳児・幼児前期の発達の特徴を理解し、適切な保育方法を考える。
・保護者と保育者、関係機関等の連携について考え、援助・支援方法を習得する。

授業計画

【後期】

１．ガイダンス・乳児保育の意義と目的
２．乳児保育の現状と課題
３．保育ニーズと乳児保育
４．実践 ①朝の受け入れ
５．〃　②食事・睡眠
６．〃　③排泄・着脱、清潔
７．〃　④遊び・迎え
８．発表
９．乳児の保育を考える　①　遊び
10.　〃　②　迎え
11. 保育実践 ①
12.　〃　②
13.　〃　③
14.　〃　④
15. まとめ

事前・事後学習の内容

・実習での乳幼児の世話を通して、困ったことや分からなかったことを整理して発表できるようにしておく。
・教材を準備し模擬保育の指導案を立てる。

評価の方法・基準

・授業レポート・授業内実技テスト（50%）、教材準備・模擬保育（50%）

教科書

・『乳児保育Ⅱ』（萌文書林）

備考

授業科目	子どもの健康と安全			担当者	関　純子		実務経験
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	保育３年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

子どものあらゆる活動の基盤は「健康」である。保育者は子どもの発達を促す働きかけを絶えず行っているが、その中には当然「健康を守り育てること」が含まれている。保育現場では、子どもの健康状態を観察や測定によって正しく把握し、状態の急変(けがや病気)に適切に対処することが求められている。演習ではそのような知識・技術を可能な限り身につけること、また、知識・技術の必要性を認識し子どもの健康に関心を持つことをねらいとする。

到達目標

・子どものバイタルサインの測定方法、正常・異常が述べられる。
・子どもの擁護技術（排泄, おむつ交換, 衣服の着脱方法, 沐浴, 調乳, 口腔ケア, 離乳食の与え方）ができる
・子どもの応急処置法(罨法、包帯法含む)ができる。
・月齢に合わせた保健だよりが作成できる。
・月齢に合わせた保健指導ができる。

授業計画

【前期】

１．小児の健康状態の観察、バイタルサインの測定
２．小児の身体発育状態の観察、身体発育の測定方法と評価
３．小児の擁護技術①　排泄(おむつの当て方)、衣服の着脱方法
４．　〃　②　沐浴、清拭
５．　〃　③　調乳、口腔ケア
６．　〃　④　離乳食の与え方、食物アレルギー、エピペンについて
７．与薬、応急処置法
８．罨法(冷罨法、温罨法)、止血法(包帯法)
９．救急蘇生法
10. 保健計画 ：「保健だより」の作成 ①
11. 〃 ②
12. 健康教育：保健指導　媒体作製①
13. 〃 ②
14. 〃 ③
15. 保健指導　発表・評価、まとめ

事前・事後学習の内容

・次回授業までに授業内容の予習を行う。
・授業初めに前回の内容の小テストを実施するので復習しておく。

評価の方法・基準

・実習態度(30%), 小テスト(10%), 保健指導　発表内容(30%),　作製物(30%)

教科書

・『子どもの保健と安全　演習ブック』（ミネルヴァ書房）

備考

授業科目	幼児への特別な支援			担当者	細川　文子		実務経験
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	保育３年	時間数（単位数）	１５（1）

授業の目的・内容

障害や、障害の傾向を持つ子どもへの早期個別支援が、成長過程の中で障害の固着化や重度化を防ぎ、子ども自身の生き易さにつながる事を理解し、様々な支援方法を修得する。

到達目標

・乳幼児期の子どもの行動形態から障害を判別することが難しいという現状を理解し、保育者と子どもの愛着関係を土台に、子どもが発達途上であることに配慮した質の高い障害児支援の実践ができる。

授業計画

【前期】

１．様々な保育現場の支援実態（児童養護施設、保育所、障害児通所支援事業所）
２．知的障害の特徴と支援
３．自閉症スペクトラム障害の特徴と支援
４．注意欠陥・多動性障害の特徴と支援
５．学習障害、その他の障害の特徴と支援
６．発達障害と児童虐待
７．特別な支援の方法
８．まとめ

事前・事後学習の内容

・障害に関連する国内外の事件やニュースを見たり、日頃から街中で出会う親子の様子などを観察したりして、様々な視点を持っておくこと。
・事前：テキストの次回授業範囲を読み、気になる点を書き出しておく。授業に活用する。
・事後：授業内容での気付きについて自分なりの考えも加えてまとめておく。授業で活用する。

評価の方法・基準

・筆記試験（70%）授業への取り組み（関心度、マナー等）（15%）事前・事後学習への取り組み（15%）

教科書

・『よくわかる障害児保育』（ミネルヴァ書房）

備考

授業科目	保育・教職実践演習			担当者	樋野本　順子		実務経験
履修方法	演習	期間	通年	学科・学年	保育３年	時間数（単位数）	６０（２）

授業の目的・内容

3 年間の学修と実習の成果を振り返り保育士、幼稚園教諭として必要な知識・技術の習得を確認する。

自己の資質と能力の向上に努めることができるよう、発表、グループワーク、模擬保育等を組み合わせて授業を展開する。

到達目標

・保育士、幼稚園教諭として必要な知識・技能に関する科目横断的な学習能力を習得する。
・保育士、幼稚園教諭として必要なコミュニケーション能力を習得する。
・保育士、幼稚園教諭としての使命感と職務内容について理解する。

授業計画

【前期】

1．オリエンテーション、保育・教職実践演習についての概要
2．保育者としての自己分析
3．保育者としての社会的使命感と役割
4．保育者としての教育的愛情、対人関係能力・自己課題探求
5．保育技術の習得①
6．〃　②
7．〃　③
8．〃　④
9．〃　⑤
10．課題研究　①
11．〃　②
12．〃　③
13．〃　④
14．〃　⑤
15．前期まとめ

【後期】

16．課題研究発表①
17．〃　②
18．振り返り
19．保育指導力探求　①
20．〃　②
21．保育指導計画・模擬保育①
22．〃　②
23．〃　③
24．〃　④
25．〃　⑤
26．〃　⑥
27．振り返り　①
28．〃　②
29．〃　③
30．まとめ

事前・事後学習の内容

・自分のテーマに関する情報収集を行い、問題の所在や現状を把握し、自らの問題解決手法を用いて研究発表への準備を行う。

評価の方法・基準

・授業への積極的な取り組み・研究発表（70%）、レポート（30%）

教科書

・『保育・教職実践演習－保育者に求められる実践力－』（建帛社）備考

備考

授業科目	保育実習Ⅰ（施設）			担当者	樋野本　順子		実務経験
履修方法	実習	期間	前期	学科・学年	保育３年	時間数（単位数）	９０（２）

実習の目的・内容

児童福祉施設及びその他の社会福祉施設において利用児・利用者に対して適切なかかわり合いによって支援をすることのできる専門的知識と技術を習得し、保育士としての資質向上を目指す。

観察実習・参加実習・部分実習・指導実習を行う。

到達目標

・実習施設の一日の流れや職務を理解し、主体的に利用児・利用者とかかわる。
・職員の職務を見たり、聞いたり、共に行動したりしながら知識・技術を習得する。
・施設の社会的役割について理解し、説明できる。
・利用児・利用者の抱える問題やニーズを理解する。

授業計画

保育実習（施設）では以下の観点から保育士としての実践力を高める。

１．児童福祉施設やその他の社会福祉施設の役割と保育士の役割について理解する。
２．利用児・利用者と家庭支援の理解。
３．養護内容・方法の理解。
４．多様な専門機関・専門職との連携の理解。
５．保育士としての自己課題の明確化。

事前・事後学習の内容

・保育実習（施設）事前事後指導を必ず受講し、実習の課題、実習に必要な準備を整える。
・実習要綱の内容を理解し、日々の学校生活で実践する。（事前訪問を含む）
・実習後、施設への日誌の提出、お礼状、日誌の受け取り、学校への日誌の提出、報告文章作成をおこなう。

評価の方法・基準

・実習手続き・実習後の書類に関する状況（30%）、実習中の状況（30%）、実習施設の評価（40%）
※実習中２日以上欠席した場合及び実習施設評価がＤ評価の場合は再実習。

教科書

・『施設実習の手引き』（渓水社）
・『知りたいときにすぐわかる　幼稚園・保育所・児童福祉施設等　実習ガイド　第二版』（同文書院）
・『実習要綱　保育実習（施設）』（トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校）

備考

授業科目	保育実習Ⅱ			担　当　者	河地　あすか		実務経験
履修方法	実習	期　　間	前期	学科・学年	保育３年	時　間　数 （単位数）	９０ （２）

授業の目的・内容

保育実習Ⅱに参加するものは、保育実習Ⅰ事前事後指導（保育所）・保育実習・保育実習事前事後指導Ⅱを必ず履修しておく必要がある。保育実習Ⅱでは、保育実習での学習内容・反省・課題を明確化し取り組むことを通して、これまで学内で学んできた保育に関する専門的な知識・技術等を保育・教育で実践するための基礎及び応用力・実践力を身に付ける。保育士に求められる保育・教育の専門性と実践力の向上を目指していきたい。

到達目標

・保育所の役割と機能を理解する。・乳幼児の発達の特徴と保育を理解する。
・既習の学びと保育実習の反省を踏まえ実習に取り組み、学びを深める。
・保育所保育指針や乳幼児の実態に即した指導案の立案と実践をすることできる。

授業計画

≪実習１週目≫

・保育所の役割と機能の理解（環境を通した保育・社会的役割・養護と保育の一体性・総合的な指導・家庭との連携等）①
・保育士の職務内容の理解①　　・保育士としての姿勢や態度の習得
・指導案の立案と検討、実践（部分）　　・１週目の学習内容の振り返り反省と自己課題の明確化
・保育技術の習得（話法・保育展開・環境構成等）
・乳幼児との適切な関わり方の習得（乳幼児の発達の理解）
・実習担当者からの指導助言の理解と課題の明確化

≪実習２週目≫

・保育所の役割と機能の理解（環境を通した保育・社会的役割・養護と保育の一体性・総合的な指導・家庭との連携）②
・保育士の職務内容の理解②　　・保育士としての姿勢や態度の習得と実践
・指導案の立案と検討、実践（部分・半日・全日）　・実習全体の学習内容の振り返り反省と自己課題の明確化
・保育技術の習得と実践（話法・保育展開・環境構成等）
・乳幼児との適切な関わり方の習得と実践、工夫（乳幼児の発達の理解）
・実習担当者からの指導助言の理解と今後の学習課題の明確化

事前・事後学習の内容

・教材研究や指導案の立案に積極的に取り組むこと。
・保育所保育指針及び解説本を熟読し、保育の基本について理解しておくこと。
・実習中、実習後の学びや反省等は具体的に書き出しておくこと。

評価の方法・基準

・実習施設による実習評価を基準とする（80%）、実習日誌の内容、実習事後レポートの内容（20%）
・実習中に実習生としてふさわしくない行動や２日連続して欠席した場合は不可とする。

教科書

・『幼稚園・保育所・認定こども園への教育・保育実習の手引き』（渓水社）
・『知りたいときにすぐわかる　幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』（同文書院）
・『保育所保育指針』（フレーベル館）・『保育所保育指針解説（厚生労働省）』（フレーベル館）

備考

授業科目	保育実習事前事後指導Ⅱ			担当者	河地　あすか		実務経験
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	保育３年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

保育実習（保育所）での学びを受けて、保育士資格取得に必修である保育実習Ⅱの事前事後指導である。保育実習Ⅱに参加する学生は必ず受講しなければならない。事前指導では、保育実習を振り返り保育実習Ⅱに向けて明確な課題をもち意欲的に実習に取り組めるよう指導する。事後指導では、保育実習Ⅱを振り返り、集団討議、合同報告会等を実施し、保育士としての指導援助の在り方、環境の構成、家庭や地域との連携、子育て支援等、専門的な知識・技術の習熟を目指す。

到達目標

・保育実習の課題を明確化できる。
・保育実習Ⅱの意義と目的を理解できている。
・保育実習Ⅱの学びや反省、課題を明確化し、報告をすることができる。

授業計画

【前期】

１．保育実習の振り返りと反省
２．保育実習の課題の明確化と保育実習Ⅱの目標
３．保育実習Ⅱの意義と目的
４．保育所の役割、機能・保育士の職務内容を理解する
５．保育士にふさわしい姿勢や態度を理解する
６．各年齢の発達の特徴の理解と関わり方
７．実習日誌の書き方
８．部分実習の内容と方法、指導案立案①
９．　〃　②
10．学内オリエンテーション
11．実習を振り返る①（自己評価と個人面談）
12．　〃　②（自己課題の明確化）
13．保育実習・保育実習Ⅱの総括・まとめ
14．実習報告会①
15．　〃　②

事前・事後学習の内容

・教材研究や指導案作成に積極的に取り組むこと。
・保育実習での自己課題を明確化し達成のための具体的な実習の取り組みを考察しておくこと。
・乳幼児関連のニュースや新聞記事に興味関心をもち保育・教育について理解を深めておくこと。

評価の方法・基準

・出席状況・授業態度（実習報告を含む）（80%）、提出物（20%）
※出席状況（欠席３回の場合は実習延期の場合有）

教科書

・配布プリント
・『保育所保育指針』フレーベル館・『保育所保育指針解説（厚生労働省）』（フレーベル館）

備考

授業科目	教育実習Ⅱ			担当者	河地　あすか		実務経験
履修方法	実習	期間	後期	学科・学年	保育３年	時間数（単位数）	９０（２）

授業の目的・内容

教育実習Ⅱに参加するものは、教育実習事前事後指導Ⅰ・教育実習・教育実習事前事後指導Ⅱを必ず履修しておく必要がある。教育実習Ⅱでは、教育実習での学習内容・反省・課題を明確化し取り組むことを通して、これまで学内で学んできた領域や教職に関する専門的な知識・技術等を保育・教育で実践するための基礎及び応用力・実践力を身に付ける。幼稚園教諭に求められる保育・教育の専門性と実践力の向上を目指していきたい。

到達目標

・幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。
・幼稚園教諭の職務内容、担任の役割の理解ができる。
・保育、教育に必要な指導技術を身に付け、様々な活動の場面で適切に幼児と関わることができる。

授業計画

≪実習１週目≫

・幼児教育の基本理解（環境を通した教育・総合的な指導・一人ひとりの特性に応じた指導）①
・幼稚園教諭の職務内容の理解①　・幼稚園教諭としての姿勢や態度の習得
・指導案の立案と検討、実践（部分）　・１週目の学習内容の振り返り反省と自己課題の明確化
・保育技術の習得（話法・保育展開・環境構成等）
・幼児との適切な関わり方の習得（子ども理解）
・実習担当者からの指導助言の理解と課題の明確化

≪実習２週目≫

・幼児教育の基本理解（環境を通した教育・総合的な指導・一人ひとりの特性に応じた指導）②
・幼稚園教諭の職務内容の理解②　・幼稚園教諭としての姿勢や態度の習得と実践
・指導案の立案と検討、実践（部分・半日・全日）・実習全体の学習内容の振り返り反省と自己課題の明確化
・保育技術の習得と実践（話法・保育展開・環境構成等）
・幼児との適切な関わり方の習得と実践、工夫（子ども理解）
・実習担当者からの指導助言の理解と今後の学習課題の明確化

事前・事後学習の内容

・教材研究や指導案の立案に積極的に取り組むこと。
・幼稚園教育要領及び解説本を熟読し、幼児教育の基本について理解しておくこと。
・実習中、実習後の学びや反省等は具体的に書き出しておくこと。

評価の方法・基準

・実習施設による実習評価を基準とする（80%）、実習日誌の内容、実習事後レポートの内容（20%）
・実習中に実習生としてふさわしくない行動や2日連続して欠席した場合は不可とする。

教科書

・『幼稚園・保育所・認定こども園への教育・保育実習の手引き』（渓水社）
・『知りたいときにすぐわかる　幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』（同文書院）
・『幼稚園教育要領』（フレーベル館）・『幼稚園教育要領（文部科学省）』（フレーベル館）

備考

授業科目	音楽(実践)			担当者	吹越 尚美		実務経験
履修方法	演習	期間	通年	学科・学年	保育3年	時間数（単位数）	60（2）

授業の目的・内容

保育・教育現場での適切な指導法、演奏技術の向上とレパートリーを増やすことを目的とする。また、打楽器の基礎奏法やリズム奏や合奏を実践することでリズム感を養うと共に音の組み合わせによる共鳴感を養う。

ピアノの練習曲(バイエル・ソナチネなど)・子どもの歌などの弾き歌い曲を課題とし、毎週レッスンと小テストを行う。

到達目標

保育者としてピアノや歌唱の技術をさらに磨き、季節を感じ生活に溶け込む音楽・表現などをレパートリーの中から自由に活かすことで、弾き歌いの実践力・表現力・即興能力といった、保育・教育現場での適切な指導法を習得することを目標とする。

授業計画

【前期】

1．合奏①（基礎）、小テスト①
2．〃 ②（練習①）
3．〃 ③（〃 ②）
4．〃 ③（発表）、レッスン①自由曲決め
5．小テスト②、レッスン②(自由曲・弾き歌い)、歌唱①
6．〃 ③、〃 ③ 〃 、〃 ②
7．〃 ④、〃 ④ 〃 、〃 ③
8．〃 ⑤、〃 ⑤ 〃 、〃 ④
9．〃 ⑥、〃 ⑥ 〃 、〃 ⑤
10．〃 ⑦、〃 ⑦ 〃 、〃 ⑥
11．〃 ⑧、〃 ⑧ 〃 、〃 ⑦
12．〃 ⑨、〃 ⑨ 〃 、〃 ⑧
13．〃 ⑩、〃 ⑩ 〃 、〃 ⑨
14．復習
15．まとめ、実技試験

【後期】

16．小テスト⑪、レッスン⑪自由曲・弾き歌い）
17．〃 ⑫、〃 ⑫ 〃
18．〃 ⑬、〃 ⑬ 〃
19．〃 ⑭、〃 ⑭ 〃
20．〃 ⑮、〃 ⑮ 〃
21．〃 ⑯、〃 ⑯ 〃
22．〃 ⑰、〃 ⑰ 〃
23．〃 ⑱、〃 ⑱ 〃
24．〃 ⑲、〃 ⑲ 〃
25．〃 ⑳、〃 ⑳ 〃
26．〃 ㉑、〃 ㉑ 〃
27．復習①、レッスン㉒自由曲・弾き歌い）
28．〃 ②、〃 ㉓ 〃
29．〃 ③、〃 ㉔ 〃 、発表
30．まとめ、実技試験

事前・事後学習の内容

・自主練習
・譜読み(拍子・調号・音程・リズム・指番号の確認)→片手練習→両手練習→部分練習→強弱を練習→リズムや速度を変えての練習などを繰り返すこと
・ゆっくり丁寧な練習を心がける

評価の方法・基準

・実技試験（課題曲<弾き歌い>・自由曲<ピアノ曲>）（85%）
・出席状況および授業態度、課題へ取り組む姿勢、小テスト（15%）

教科書

・『保育実用書シリーズ こどものうた200』（チャイルド社）
・『保育実用書シリーズ 続こどものうた200』（チャイルド社）
・『ピアノ学習者のためのやさしい楽典』（ドレミ楽譜）
・『ソナチネアルバム』（全音楽譜）
・『楽しい音楽表現』（圭文社）、プリント配布
・『ピアノ学習者のためのやさしい楽典』（ドレミ楽譜）

備考

授業科目	指導案実践演習Ⅲ			担当者	河地　あすか		実務経験 ○
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	保育３年	時間数 （単位数）	３０ （1）

授業の目的・内容

実践力の獲得と向上に努めるために、教材研究や指導育方法を十分に検討し、指導計画の立案→実践（実習先）→分析・考察→全体へ報告する。また、子どもの遊びや活動の精選と保護者に論理的にわかりやすく説明できるスキル習得を目指し、子どもの様々な場面から、個々の経験や学びを読み取り、適切な環境を検討することを通して子ども主体の保育について理解を深める。

到達目標

・部分実習の事前準備が丁寧に且つ十分にできる。
・保育者として保育を実践する。
・乳幼児の遊びや活動を通した経験や学びの読み取りができる。

授業計画

【前期】

１．ガイダンス
２．壁面・誕生表製作①
３．　〃　　②
４．教材研究と指導案作成①
５．　〃　　②
６．　〃　　③
７．部分実習の分析と考察①
８．　〃　　②
９．　〃　　③
10．保育研究報告会①
11．　〃　会②
12．子ども主体の保育とは①
13．　〃　　②
14．　〃　　③
15．　〃　　④

事前・事後学習の内容

・教材研究を十分に実施し、保育方法を検討しておくこと。
・実習時の保育者からの指導内容や自身の経験、反省、気付き、改善点等、具体的に記録しておくこと。
・これまでの実習経験を活かし、参考にすること。

評価の方法・基準

・出席状況（15%）、授業に取り組む姿勢（40%）、提出物（15%）、報告姿勢（30%）

教科書

・使用しない

備考

元幼稚園教諭が現場での経験を生かし、指導計画の立案・実践方法について指導する。

授業科目	子育て支援Ⅲ			担　当　者	樋野本　順子		実務経験
履修方法	演習	期　　間	後期	学科・学年	保育３年	時　間　数 （単位数）	３０ （1）

授業の目的・内容

子育て支援施設での活動を実際に体験したり、子育て支援を行なっておられる方の話を聞いたりする中で、子育て支援の必要性について学ぶ。

これからの子育て支援の在り方を考え実践する。

到達目標

・児童福祉施設や子育て支援センターにおける子どもや保護者への支援事例を通して、さまざまな支援方法について理解する。

授業計画

【後期】

１．これからの子育て支援
２．子育て支援の実際
３．現場体験①
４．　〃　　②
５．振り返り①
６．現場体験③
７．　　〃　④
８．振り返り②
９．現場体験⑤
10．現場体験⑥
11．振り返り③
12．自分たちが考える子育て支援①
13．　　〃　　②
14．発表
15．まとめ

事前・事後学習の内容

・授業内容をふまえ、授業のまとめとして課題レポートの提出をする。
・ロールプレイを行うので、保育士や子ども、保護者の状況をしっかりと理解し、演じられるようにすること。
・各グループで児童福祉施設における支援事例の紹介を行うため、担当グループは事例を読み込んでおくこと。

評価の方法・基準

・授業などの取り組み（60%）レポート・実践案提出（40%）など総合的に評価する。

教科書

・なし。

備考

授業科目	保育特論Ⅱ			担当者	こども保育学科　教員		実務経験
履修方法	演習	期間	通年	学科・学年	保育３年	時間数（単位数）	６０（２）

授業の目的・内容

一人ひとりの子どもたちの育ちを受け入れ、日々必要に応じた保育を実践していくことのできる保育者となるために、講演や演習を通して保育者の役割について理解を深める。また、研究・発表・反省・省察を通して、これからの保育者として必要な資質、能力を培っていくことを目指す。

到達目標

・実習先について理解し、児童福祉施設・幼稚園・こども園について説明できる
・講演や演習を通して実践力を身に付ける
・保育者として求められる資質・能力を理解し、説明できる

授業計画

【前期】

１．身だしなみ（保育者として）、施設実習について（面談・書類準備）
２．１年生歓迎会の準備、レク、リハーサル
３．メイク指導、マナーなど①
４．　〃　②
５．施設実習について（準備・確認）
６．自主学習
７．実習前チェック（施設）身だしなみ、日誌
８．障害の理解
９．わらべうた
10．絵手紙①
11．　〃　②
12．　〃　③
13．学園祭の練習、準備について
14．準備
15．まとめ

【後期】

16．学園祭の準備
17．　〃
18．幼稚園の理解①
19．　〃　②
20．保育園の理解①
21．　〃　②
22．保育技術研究①
23．　〃　②
24．保育技術研究①
25．　〃　②
26．　〃　③
27．　〃　④
28．　〃　⑤
29．　〃　⑥
30．まとめ

事前・事後学習の内容

・準備物等がある場合は早めに準備し忘れ物のないようにする。
・授業後に配布される振り返りシートを記入し提出する。

評価の方法・基準

・受講態度・出席状況（50%）、発表姿勢・内容（20%）、提出物（30%）

教科書

・適宜、プリントを配布する。

備考

授業科目	社会貢献活動Ⅲ			担　当　者	こども保育学科　教員		実務経験
履修方法	実習	期　　間	通年	学科・学年	保育３年	時　間　数 （単位数）	９０ （2）

授業の目的・内容

養成校の近隣地域の企業・施設での貢献活動を通して、地域の人々とコミュニケーションをはかり役割や支援について考え、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、今後の学習や地域・子育て家庭・子どもの支援に役立てる。また、職員同士の連携や役割分担・情報の伝達共有など、コミュニケーション能力や地域の人々を支える役割を担う者として必要な倫理観や専門職意識を養う。

到達目標

・リーダーシップとフォロワーシップを実践的に学び、チームをマネジメントする力が持てる。
・対象者（高齢者・乳幼児・乳幼児の保護者）の安心した生活を支えるための実践力を身につける。
・地域に住む対象者（高齢者・乳幼児・乳幼児の保護者）を支える制度や支援体制について学ぶ。

授業計画

【前期】

１．目的理解
２．導入講座
３．グループでの活動検討
４．貢献活動①
５．　〃　②
６．　〃　③
７．　〃　④
８．　〃　⑤
９．中間振り返り
10．貢献活動⑥
11．　〃　⑦
12．　〃　⑧
13．　〃　⑨
14．　〃　⑩
15．振り返り

【後期】

16．貢献活動⑪
17．　〃　⑫
18．　〃　⑬
19．　〃　⑭
20．　〃　⑮
21．中間振り返り
22．貢献活動⑯
23．　〃　⑰
24．　〃　⑱
25．　〃　⑲
26．　〃　⑳
27．活動報告会準備①
28．　〃　②
29．　〃　③
30．活動報告会

事前・事後学習の内容

・活動前に必ず活動内容、役割分担を理解しておくこと

評価の方法・基準

・出席状況（60%）　取り組み姿勢（40%）

教科書

・なし

備考

授業科目	**就職実務Ⅲ**			担　当　者	河地　あすか		実務経験
履修方法	講義	期　　間	通年	学科・学年	保育３年	時　間　数 （単位数）	３０ （2）

授業の目的・内容

福祉関係、教育関係の就職活動の進め方を理解し、就職試験対策を行うことで、就職100%を目指す。

また、これまでの学習を振り返り、保育者として必要とされる保育、福祉、教育の基礎知識、専門的な知識と技術の習得を確認し、卒業の単位を取得する。就職先で生かしていくための準備をする。

到達目標

・方向性を定め、積極的に就職活動に取り組むことができる
・希望する就職先から内定を頂く
・卒業試験(単位取得)に合格する

授業計画

【通年】

１．オリエンテーション・身だしなみ
２．就職活動の流れ
３．履歴書作成
４．面接練習
５．保育士・幼稚園・こども園職場説明会
６．模擬練習（保育技術）　①
７．　　〃　　②
８．　　〃　　③
９．保育士資格登録手続き
10．幼稚園教諭免許取得手続き
11．就職先の理解
12．卒業製作、就職の準備　　①
13．　　〃　　②
14．　　〃　　③
15．まとめ

事前・事後学習の内容

・就職年次生であることを意識しながら（言葉遣い・所作・身だしなみ）日常生活を送ること
・保育、教育に関するニュースに関心をもち、情報収集に努める

評価の方法・基準

・出席状況、受講態度（70%）、提出物（30%）

教科書

・使用しない、配布物
・必要に応じて着用及び準備（実習服、シューズ、スーツ　他）

備考

授業科目	ＩＣＴスキル講座 (選択必修)			担　当　者	椿　幸治		実務経験
履修方法	演習	期　　間	後期	学科・学年	保育３年	時　間　数 （単位数）	３０ （1）

授業の目的・内容

保育における ICT の活用は、保育士の業務効率化や教育の質の向上に役立っている。本講義では、ICT 機器の基本スキルの習得と保育業務への活用、保育記録や連絡事項等のディジタル化を通して、ICT スキルを向上させることを目的とする。

到達目標

・保育士に必要な ICT スキルの基礎を身につける。
・ICT スキルを活用して、保育教材における表現の幅を広げる。
・実践を通して ICT リテラシーを高める。

授業計画

【後期】

１．ICT リテラシーの基礎、Microsoft Teams の活用
２．動画撮影の仕方
３．動画編集①
４．　〃　②
５．動画出力①ショートムービー作成
６．　〃　②
７．Microsoft Forms を利用したアンケートの作成
８．プレゼンテーション①基本操作、図、イラスト、表の配置やレイアウト
９．　〃　②写真や動画のスライドショー①
10．　〃　③写真や動画のスライドショー②
11．文書デザイン①基本操作、表や図の挿入
12．　〃　③複雑なレイアウトの作成
13．　〃　④保育ドキュメンテーションの作成①
14．　〃　⑤　〃　②
15．保育 ICT 検定

※希望者は文書デザイン検定を受験する。

事前・事後学習の内容

・講義中に配布するプリント内の課題がしっかりできるよう復習しておく。

評価の方法・基準

課題提出（80%）、授業態度・出席状況（20%）

教科書

プリント配布

備考

授業科目	おやつと食育 （選択必修）			担　当　者	斎木　亜子		実務経験
履修方法	演習	期　　間	後期	学科・学年	保育３年	時　間　数 （単位数）	３０ （1）

授業の目的・内容

　食物アレルギーと乳幼児期のおやつについて理解を深め、子どもが喜ぶおいしいおやつを創作する。子どもと一緒におやつ作りを楽しみながら、食の大切さを伝える「食育」の計画を立案する。

到達目標

・食物アレルギーについて理解を深める。
・食育の計画を立案できる。
・みんなが喜ぶおやつを創作できる。

授業計画

【後期】

１．オリエンテーション・子どものおやつ、食物アレルギーについて
２．≪調理実習≫アレルギー対応食の実践（食事）①
３．≪調理実習≫　　〃
４．≪調理実習≫　　〃　　(おやつ)
５．≪調理実習≫　　〃
６．子どものおやつを考える
７．≪調理実習≫創作おやつの試作
８．≪調理実習≫創作おやつの作成①
９．≪調理実習≫　　〃　　②
10．≪調理実習≫　　〃　　③
11．食育計画の作成
12．≪調理実習≫食育計画にそった発表会準備
13．≪調理実習≫　　〃
14．発表会
15．　〃

※希望者は「アレルギー対応食アドバイザー」の資格にチャレンジできる。
※実習回は２～３時間の連続授業。

事前・事後学習の内容

・授業計画に沿ったテーマごとに調理実習の内容を考える。
・調理に必要な材料を購入する。（買い物）
・アレルギー対応食アドバイザーを受ける人：課題、添削問題、試験

評価の方法・基準

・出席（25%）、課題（25%）、演習・実習（50%）

教科書

・『子どもの食と栄養』（北大路書房）：２年次に使用したもの

備考

授業科目	環境と自然 (選択必修)			担当者	樋野本　順子		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育３年	時間数 （単位数）	３０ （1）

授業の目的・内容

持続可能な社会に向けて、乳幼児から子どもたちが主体的に自然に興味・関心を持つ環境づくりを考えていく。

到達目標

・自然とのかかわりが豊かになる遊びの発見
・自然環境での遊びに対する知識を身につける。

授業計画

【後期】

１．自然とのかかわり
２．季節と自然環境①
３．　〃　　②
４．　〃　　③
５．　〃　　④
６．　〃　　⑤
７．保育環境と自然①
８．　〃　　②
９．　〃　　③
10．　〃　　④
11．　〃　　⑤
12．自然と地域社会①
13．　〃　　②
14．発表準備
15．発表

※事前体験ができる現場に出向くことがある為、天候等の状況によりシラバスの変更がある。
※活動しやすい服装を準備して臨む。

事前・事後学習の内容

持続可能な社会に向けて、教育や社会全体で取り組んでいる内容について調べ、授業で取り組んだことを機会をとらえて実際に現場の先生方と検証していく。

評価の方法・基準

・授業に取り組むし姿勢（80%）・発表（20%）

教科書

・参考資料を適宜紹介

備考

授業科目	チャイルドスポーツ (選択必修)			担当者	樋野本　順子		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育３年	時間数 （単位数）	３０ （1）

授業の目的・内容

この授業では、乳幼児の運動遊びや親子でできる運動を自身で取り組みながら考えていく。世界の遊び、リズム運動、器具を使用した運動など、現代を生きる子どもたちに必要な運動遊びを提供できる保育者を目指す。

到達目標

・子ども達が自ら取り組みたくなる様々な運動遊びを考える。
・親子で取り組める運動遊びを考える。

授業計画

【後期】

１．子どもの運動発達について
２．運動遊びの考察①
４．　〃　②
５．運動遊び研究①
６．　〃　②
７．　〃　③
８．　〃　④
９．　〃　⑤
10．　〃　⑥
12．　〃　⑦
13．　〃　⑧
14．発表準備
15．発表

※天候や遊びの内容によって外部に移動する場合がある。
※運動できる服装、靴等、運動する際に必要と思われる物品を必ず準備して活動に臨む。

事前・事後学習の内容

実習で子どもたちの動きや運動の仕方をよく観察し、運動遊びの種類、運動に使用する器具等について調べておく。授業で考えた動きや運動は機会をとらえて現場で取り組んでいく。

評価の方法・基準

・授業に取り組む姿勢（80%）・発表（20%）

教科書

・参考資料を適宜紹介

備考

授業科目	チャイルドミュージック (選択必修)			担当者	相川　万里子		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育３年	時間数 （単位数）	３０ （1）

授業の目的・内容

子どもの想像力を広げる楽しい音楽を学ぶ

・個々に合わせたピアノの技術力・実践力アップを目指す

・様々な楽器を使って合わせる難しさと楽しさ、音楽表現や子どもへの指導法を学ぶ

・発声(ボイストレーニング)練習を行うことで子どもの心に響く素敵な歌声の習得を目指す

・音楽に合わせてリズムを刻み、ダンスの楽しさを学ぶ

到達目標

　ピアノ技術の更なる向上や歌唱やアンサンブル・舞台演出の方法等の様々な音楽表現を学び、子どもの感性や表現力を引き出せる技術力・実践力を習得する

授業計画

【後期】

１．オリエンテーション

２．研究・発表内容を考える①

３．　〃　②

４．実技研究(ピアノ・声楽・合奏、ダンス、ホール・演奏会・発表会見学等) ①

５．　〃　②

６．　〃　③

７．　〃　④

８．　〃　⑤

９．　〃　⑥

10.　〃　⑦

11.　〃　⑧

12.　〃　⑨

13.　〃　⑩

14. 研究発表

15. 振り返り・まとめ

事前・事後学習の内容

・自主練習　・ゆっくり丁寧な練習を心がける

・譜読み(拍子・調号・音程・リズム・指番号の確認)→片手練習→両手練習→部分練習→強弱を練習→リズムや速度を変えての練習などを繰り返すこと

評価の方法・基準

・実技研究発表〈ピアノ曲、合奏曲、合唱曲など〉(70%)、レポート（10%）

・出席状況および授業態度、課題へ取り組む姿勢、（20%）

教科書

・プリント配布　・『保育実用書シリーズ　こどものうた200』（チャイルド社）　・『保育実用書シリーズ続こどものうた200』（チャイルド社）

・『ピアノ学習者のためのやさしい楽典』（ドレミ楽譜）　・『ソナチネアルバム』（全音楽譜）

・『楽しい音楽表現』（圭文社）　、プリント配布　・『ピアノ学習者のためのやさしい楽典』（ドレミ楽譜）

備考

授業科目	チャイルドアート (選択必修)			担当者	河地　あすか		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	保育３年	時間数 （単位数）	３０ （1）

授業の目的・内容

様々な児童文化財に興味関心をもち理解を深め、創意を凝らしシアター等を作成する。そして、演じ方や表現方法を考え工夫し、機会を捉えて発表することを通して、保育者に必要な実践力を身に付ける。

到達目標

・児童文化財について理解を深める。
・エプロンシアター等の保育教材を作成する。
・児童文化財を使用した実践力を習得する。

授業計画

【後期】

１．オリエンテーション（児童文化財について）
２．子どもと一緒に遊べる手作りおもちゃの作成①
３．　〃　②
４．　〃　③
５．　〃　④
６．現場で生かせる保育教材を考える・保育教材の作成①
７．保育教材の作成②
８．　〃　③
９．　〃　④
10．　〃　⑤
11．　〃　⑥
12．　〃　⑦
13．　〃　⑧
14．発表会①
15．　〃　②

事前・事後学習の内容

・現場で使用されている児童文化財に興味関心をもつ。
・自ら積極的に発表する機会をつくる。
・保育雑誌や保育関連メディアに興味をもち情報収集に励むこと。

評価の方法・基準

・出席、授業態度（20%）、課題提出（20%）、作成と実践（60%）

教科書

・プリント配布

備考

授業科目	介護実務者研修Ⅱ （選択）			担当者	河地　あすか		実務経験
履修方法	講義・演習	期間	通年	学科・学年	保育３年	時間数 （単位数）	２３０ （7）

授業の目的・内容

介護職員に求められる知識・技術を習得し、介護福祉士国家試験の受験資格を得るための介護実務者研修の修了資格の取得を目指す。

介護領域のうち、医療的ケアの領域、人間と社会の領域、こころとからだのしくみの領域を学ぶ。

医療的ケア演習はスクーリングによる授業を行う。

到達目標

・人間の尊厳と自立について理解できる。
・介護保険制度・社会保障制度・社会福祉サービスについて理解する。
・利用者の発達と老化の原因と特性が理解できる。
・認知症についての理解ができ、高齢者の支援に活用できる。
・障害についての理解ができ、障害者の支援に活用できる。
・心理・精神の理論が理解でき、利用者の支援に活用できる。
・人間のからだとこころのしくみを理解し、利用者の心身特性に応じた支援ができる。
・喀痰吸引や経管栄養の知識と技術を習得し、手順に従って手技ができる。

授業計画

１～ ８．医療的ケア
９～ 15．医療的ケア演習（スクーリング）
16～ 18．人間の尊厳と自立
18～ 20．社会の理解Ⅰ
21～ 36．　〃　Ⅱ
37～ 41．発達と老化の理解Ⅰ
42～ 51．　〃　Ⅱ
51～ 55．認知症の理解Ⅰ
56～ 65．　〃　Ⅱ
66～ 70．障害の理解Ⅰ
71～ 80．　〃　Ⅱ
81～ 90．こころとからだのしくみⅠ
91～115．　〃　Ⅱ

事前・事後学習の内容

・各教科目の教科書をよく読み、内容をよく理解する。
・各教科目の演習問題を解き内容を理解し、間違った箇所は教科書を見直し何度も演習問題に取り組む。
・スクーリングで学んだ手技を何度も練習しマスターする。

評価の方法・基準

・各教科の演習および試験による評価（100%）。

教科書

・『介護職員等実務者研修（450 時間研修）テキスト　第１巻～第５巻』（中央法規）

備考